

令和2年度実施

令和元年度教育委員会事務事業点検・評価報告書



令和2年8月

海陽町教育委員会

目 次

1	実施方法	1
	(1) 点検及び評価の対象について	1
	(2) 点検及び評価の方法	1
	(3) 評価結果の取扱いについて	1
	(4) 評価スケジュール	1
2	教育委員会の活動状況	2
	(1) 教育委員会の組織	2
	(2) 教育委員会の会議の開催状況	2
	(3) その他の活動	3
	① 会議・研修会等	3
	② 行事等	3
	③ 学校訪問	3
3	点検及び評価結果	4
	(1) 点検及び評価事業一覧	4
	(2) 事務事業評価シート	6
4	外部評価委員会の意見	5 4

【資料】

資料 1	海陽町第 2 期教育振興計画体系	5 7
資料 2	海陽町教育委員会外部評価委員会設置要綱	5 8

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」（昭和31年法律第162号）が、平成19年6月に公布され、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成20年4月1日から、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされました。

このことから、海陽町教育委員会は、この規定を受け、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施し、報告書をまとめました。

今後とも教育施策の更なる充実に向けた取り組みの推進に努めて参りますので、皆様の一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

1 実施方法

(1) 点検及び評価の対象について

点検及び評価の対象とする事業は、令和元年度海陽町教育基本方針に定める各施策に基づいて実施した事業を対象として行います。

(2) 点検及び評価の方法

教育委員会事務局において、各事業ごとに取り組んだ実績を整理し、一次評価を行います。一次評価は、事業所管係で評価管理シートを用い、次の評価基準（表1）により行います。

次に、点検・評価内容の客観性を確保するために教育に関して学識経験者を有する外部評価委員（外部評価委員名簿 表2）に二次評価をいただきます。

評価基準（自己評価）

表1

達成度評価	
計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている	A
ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている	B
計画通りではなかったが、事業目的は達成した。	C
計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。	D

外部評価委員名簿

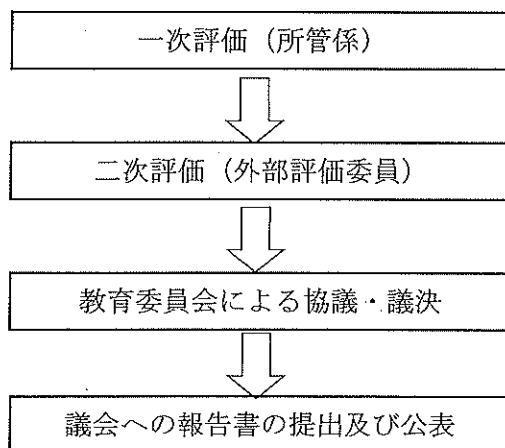
表2

事務点検・評価委員名	役職等
叶崎 正	元教育委員
登井 啓文	元小学校長

(3) 評価結果の取扱いについて

教育委員会が行う事務事業の点検及び評価に関する結果を報告書としてとりまとめ、毎年9月開会の町議会定例会に提出し、公表するとともに、翌年度における施策、事業の改善に役立てるものとします。

(4) 評価スケジュール



2. 海陽町教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会の組織

○教育委員会委員の就任状況（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

令和2年3月31日現在

氏名	役職	異動状況
三浦 良	教育長	平成30年6月21日 就任
富田 充宏	教育長職務代理者	平成30年6月25日 教育長職務代理者 就任
ラフォンテーヌ裕子	教育委員	平成27年5月27日 就任
木戸口 貢 淳	教育委員	平成29年5月27日 就任
西宮 治	教育委員	平成30年5月27日 就任

(2) 教育委員会の会議の開催状況等

毎月1回定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催

	開催日	議案	協議事項	報告事項	計
第1回定例会	平成31年4月24日	5	1	3	9
第2回定例会	令和元年5月22日	4	2	9	15
第3回定例会	令和元年6月26日	3	2	6	11
第4回定例会	令和元年7月30日	5	2	3	10
第5回定例会	令和元年8月21日	6	1	3	10
第6回定例会	令和元年9月25日	4	7	2	13
第7回定例会	令和元年10月24日	1	2	7	10
第1回臨時会	令和元年11月15日	1			1
第8回定例会	令和元年11月27日	2	2	3	7
第9回定例会	令和元年12月17日	1	2	3	6
第10回定例会	令和2年1月30日	2	3	4	9
第11回定例会	令和2年2月27日	1	4	4	9
第2回臨時会	令和2年3月6日	1	1		2
第12回定例会	令和2年3月25日	4	2	4	10
計		40	31	51	122

(3) その他の活動

①会議・研修会等

時 期	名 称	概 要
平成31年 4月	徳島県市町村教育委員会教育行政連絡協議会	令和元年度徳島県教育重点施策について(年1回開催)
	徳島県市町村教育委員会連合会定期総会・研修大会	徳島県市町村教育長会合同理事会を受けた定期総会及び研修大会(年1回開催)
令和 元年11月	徳島県・市町村教育委員会教育委員等研修会	教育委員会制度の理念や教育及び教育行政に関する理解と見識をより深め、教育を取り巻く諸問題に的確に対応し、教育行政の円滑な推進を図る。

②行事等

時 期	名 称	概 要
平成31年 4月	幼小中学校 入学式	幼稚園1園、小学校3校、中学校2校に分散し出席
令和元年9～10月	幼小中学校 運動会・体育祭	幼稚園1園、小学校3校、中学校2校に分散し出席
令和 2年 1月	成人式	男性52名、女性44名、計96名が成人式典に参加
令和 2年 3月	幼小中学校 卒業式	幼稚園1園、小学校3校、中学校2校に分散し出席

③学校訪問

時 期	名 称	概 要
令和 元年 6月	町教委学校訪問	幼稚園1園、小学校3校、中学校2校へ3日間訪問

点検及び評価事業一覧

評価番号	事業名	教育振興計画の体系	事業所管係
1	土曜学習の推進	基本方針1・2・5	学校教育
2	コミュニティ・スクールの充実(学校運営協議会の活用)	基本方針1・3	学校教育
3	放課後子ども教室の運営	基本方針1	社会教育
4	青少年健全育成活動の推進	基本方針1・2	社会教育
5	定期補導活動	基本方針1・2	社会教育
6	成人式	基本方針1	社会教育
7	学校活性化協議会	基本方針1・3	学校教育
8	スポーツ少年団助成	基本方針1・3	社会体育
9	特別支援教育の充実(巡回相談員の配置)	基本方針2・4	学校教育
10	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー活用	基本方針2・4	学校教育
11	町費助教諭と特別支援教育支援員の配置	基本方針2	学校教育
12	学力向上推進	基本方針2	学校教育
13	幼児教育の充実	基本方針2	学校教育
14	通学補助金交付	基本方針2	学校教育
15	町内園・校長会	基本方針2	学校教育
16	学校図書館の充実	基本方針2	学校教育
17	中学校部活動運営(合同体制)の充実	基本方針2	学校教育
18	地元高校魅力化推進補助	基本方針2	学校教育
19	スクールバス運営	基本方針2	学校教育
20	学校施設整備	基本方針2	学校教育
21	学校給食の充実(地産・地消、給食センター運営)	基本方針2	学校教育
22	食育の推進	基本方針2	学校教育
23	防災教育の推進	基本方針2	学校教育
24	町奨学金貸与・おかえReターン海陽奨学金支援制度	基本方針2	学校教育

25	子どもあゆみ事業活用	基本方針2	学校教育
26	就学援助	基本方針2	学校教育
27	教育委員会表彰	基本方針6	学校教育
28	公民館活動	基本方針3	社会教育
29	社会教育施設の充実(公民館・体育施設も含む)	基本方針3	社会教育
30	図書館の運営の充実	基本方針3	社会教育
31	文化館の運営の充実	基本方針3・1・2	社会教育
32	文化館自主事業	基本方針3	社会教育
33	文化協会	基本方針3	社会教育
34	文化村祭	基本方針3	社会教育
35	生涯教育の振興と充実	基本方針3	社会教育
36	新春ふれあい駅伝大会運営	基本方針3	社会体育
37	総合型地域スポーツクラブ	基本方針3	社会体育
38	体育協会助成	基本方針3・1	社会体育
39	人権教育の推進	基本方針4	社会教育
40	いじめ・不登校防止	基本方針4	学校教育
41	博物館の運営の充実	基本方針5・1・2・3	社会教育
42	文化財保護・活用	基本方針5	社会教育
43	阿波学会総合学術調査	基本方針6	社会教育
44	グローバル教育の推進	基本方針6・2	学校教育
45	英語検定補助	基本方針6・2	学校教育
46	ALT派遣事業	基本方針6・2	学校教育
47	ICT教育の推進	基本方針6・2	学校教育
48	キャリア教育の推進	基本方針6	学校教育

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	1
事業名	土曜学習の推進					教育振興計画の体系	基本方針1・2・5
事業費(千円)	平成30年度	647	令和元年度	154	所管係	学校教育係	
事業目的	学校、家庭、地域社会が連携し、さまざまな体験活動を行うことにより、「生きる力」を育成する。						
事業内容(Plan)	教育委員会が主体となり小中学生を中心に据えて、地域の人々を巻き込みながら行う活動。地域の教育力を生かし、地域と一体となって地域の人材や自然、文化財等の豊かな社会資源を活用し、地域に根ざした体験活動や交流活動を行う。						
事業の実施状況及び成果等(Do)	<p>令和元年度は、大別して3種類7事業を実施した。</p> <p>1. 学校と連携した事業 ①防災学習(75) ②文化財巡り(73)</p> <p>2. 地域住民(家庭)と一緒に活動した事業 ③星空観察会(30) ④海陽町の珍しい植物を見てみよう(8) ⑤吉野城跡訪問(2) ⑥室内ゲーム大会(32) ⑦角力取り山城と穴喰峠(中止)</p> <p>3. 「あったかいよう」との提携事業 ⑧大砂クリーンアップ(27) ⑨牟岐色窯体験(中止)</p> <p>()内は参加者数。⑦⑨は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。</p> <p>○子どもたちが地域を知り、地域を愛し、誇りを持つきっかけとなった。 ○他校および異校種間の児童生徒の交流が図れた。 ○地域の人たちとの協働ができ、地域ぐるみで子どもを育てる関心・意欲が見られた。 ○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2つのイベントが中止となった。</p>						
一次(内部)評価(Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
		B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
	○	C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取り組みの方向性	○	拡充 継続 縮小 見直し 休廃止	今後の方針(Action)	引き続き、土曜学習を実施し、地域を巻き込んだ体験活動を充実させていきたい。			
二次(外部)評価	B	継続	昨年度に比べ、実施した事業数が増えている評価できる。今後も子どもたちの教育課題に合った土曜学習を続けていって欲しい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	2
事業名	コミュニティ・スクールの推進・充実					教育振興計画の体系	基本方針1・3
事業費(千円)	平成30年度	711	令和元年度	190	所管係	学校教育係	
事業目的	保護者や地域住民が学校運営に参画する「学校運営協議会」制度の導入により、地域の力を学校運営や児童生徒の育成に生かす「地域とともにある学校づくり」を推進する。						
事業内容(Plan)	コミュニティ・スクールを平成30年度に町内の全小中学校に指定し、令和元年度も継続した。各校には学校運営協議会が設置され、地域とともに教育活動を展開している。						
事業の実施状況及び成果等(Do)	<p>学校運営協議会を定期的を開催し、学校と保護者及び地域住民と学校運営や児童生徒の状況に関しての情報交換や地域の教育力を生かした活動が行われている。そのことで、学校と保護者及び地域住民との信頼関係を深めるとともに、学校運営の改善や生徒指導上の課題解決、学力向上にも成果が表れている。</p> <p>また、学校評価に委員の意見を反映させることで、学校関係者評価が効果的に実施され、次年度に向けて改善を図ることができている。</p>						
一次(内部)評価(Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取り組みの方向性		<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 休廃止	今後の方針(Action)	引き続き、コミュニティ・スクールを実施し、地域とともにある特色ある学校づくりを目指す。			
二次(外部)評価	B	継続	町内すべての小中学校にコミュニティスクール(学校運営協議会)が設置され、2年目となり、学校運営の改善や生徒指導上の課題解決、学力向上にも成果が表れている。さらに、地域の教育力を生かした学校づくりを推進していった欲しい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	3
事業名	放課後子ども教室の運営					教育振興 計画の体 系	基本方針1
事業費 (千円)	平成30 年度	14,317	令和元 年度	16,981	所管係	社会教育係	
事業目的	放課後に小学校児童を一時的に預かり、昼間仕事に従事する保護者に代わって、地域住民である指導員が見守り役をすることで、児童の安全、安心な居場所を提供する。						
事業内容 (Plan)	<p>○放課後に、各種指導員のもと、町内3小学校の児童が社会教育施設、体育館、校庭等を活用し、安全な環境で学習活動、校外活動などに取り組んでいる。</p> <p>※対象児童・・・町内に在籍する児童（1年生～6年生）</p> <p>※開所日・・・月曜日～金曜日（祝祭日、長期休みは除く）</p> <p>※開所時間・・・14時00分～17時00分</p> <p>※利用料・・・年間800円（保険代）</p> <p>※開催場所・・・海南地区 海南こども館 海部地区 奥浦老人福祉センター 宍喰地区 宍喰ドリーム館</p>						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>○開室している3箇所全体で、200名余りの児童が参加登録しており、年間で190日前後実施している。</p> <p>○放課後子ども教室では、異学年が入り交じって遊ぶことのできる環境が提供できるため、低学年の面倒を高学年がみる等、健全な人間形成の場としての機能がある程度果たしている。</p> <p>○学校の先生とは違う見守り役としての地域住民である指導員との間のふれあひも世間一般的に希薄になりつつある地域社会との絆作りの意味で果たす役割は大きい。</p> <p>○各月の予定表を作るのはコーディネーターの重要な仕事で、学校長とコーディネーター、町教育委員会の担当が定期的集まり、活動状況等の情報交換を行う。また、指導員は外部の研修会へも参加することで現場活動に生かしている。</p>						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 休廃止	今後の方 針 (Action)	子どもたちの利便性を高め、より安全・安心な活動ができるように、現在使用している施設から順次、地区内の小学校の空き教室等を利用するように、準備を進めていきたい。宍喰地区は令和2年度より、宍喰ドリーム館から宍喰小学校へ活動場所を移して実施しており、海南地区、海部地区もこれに続けるように、学校との具体的な協議を今後行っていく。			
二次評価 (外部)	B	継続	今後も子どもたちの安全安心な居場所になるようハード面、ソフト面の整備を進めていただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	4
事業名	青少年健全育成活動の推進					教育振興 計画の体 系	基本方針 1・2
事業費 (千円)	平成30 年度	230	令和元年 度	230	所管係	社会教育係	
事業目的	青少年健全育成の推進のため、地域ぐるみでの健全育成への取り組みを図っている。家庭、地域の連携を通じた青少年の健全育成や、様々な奉仕・体験活動を通じた地域健全育成活動を推進する。						
事業内容 (Plan)	児童生徒の情報を共有し、密に連携が取れるよう青少年育成海陽町民会議の運営委員が集まる会議や長期休業前の情報交換会を行っている。また地域の子どもを見守り育てる町内非行防止パレード、こども俳句の文化祭展示、豊かな心と郷土愛を育むような活動を行っている。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>定期的に情報交換会を行い、児童・生徒の情報交換を行う場を設けている。そのときに児童・生徒の情報のみだけでなく、他校の懸案事項やそれに対する取り組み等の情報も聞ける良い機会となっている。他校の状況も知ること自校の事前対策にもつながっている。地域の方々も会議に参加していただき、登下校の見守りなども行ってくれている。防災学習等の活動にもボランティアとして参加してきており、地域で子どもを見守り育てるという意識が根付いている。</p> <p>○総会研修会（1回） ○情報交換会（3回） ○防災学習（1回） ○文化財巡り（1回） ○文化祭俳句の展示 ○防犯パレード（1回）</p>						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	引き続き、地域ぐるみで児童・生徒を見守っていつてもらえるような取り組みを行っていききたい。			
	○	継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次評価 (外部)	B	継続	本事業が、「地域の子どもは地域で守り育てる」活動となっている。これからも引き続き、取り組みを進めていただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

					評価番号	5
事業名	定期補導活動				教育振興計画の体系	基本方針 1・2
事業費 (千円)	平成30年度	0	令和元年度	0	所管係	社会教育係
事業目的	防犯パトロールを計画的に推進し、学校や関係機関との連携を深め、青少年の非行防止と健全育成をより推進させる。					
事業内容 (Plan)	<p>(1) 定期補導を通じて、通常補導の強化・補導員活動の強化で地域の補導活動の充実を図る。また、防犯パトロール等により①②を図る。</p> <p>①地域の非行防止活動を推進する。</p> <p>②学校行事や地域の行事等に参加し、子どもの把握に努める。</p> <p>(2) 青少年町民育成会議を定期的に開催し、町民総ぐるみ運動への協力関係を図る。</p> <p>①地域や関係機関との密接な連携を図り、日常の実践活動に活かす。</p>					
事業の実施状況及び成果等 (Do)	<p>①定期活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第2金曜日に実施 <p>②祭礼時街頭パトロール（2回）</p> <p>③学校行事（入学式・文化祭・授業参観・部活動訪問・非行防止パレード等）</p> <p>④放課後子ども教室訪問（2カ所）</p> <p>⑤量販店、コンビニ店等への巡視</p> <p>⑥JR駅前駐輪場放置車両等調査（2回）</p> <p>⑦水泳場の調査、見回り</p> <p>○定期補導を通じて、情報収集や各学校との連絡・連携活動・地域の犯罪防止の高揚が図れた。</p> <p>○青少年町民育成会議を通じて、各学校との連絡、関係団体等との協同、地域の連帯感の強化に繋がった。</p> <p>○卒業式は、コロナ感染拡大防止の為に出席を自粛した。</p> <p>○ある地域の祭りで、警察が絡む事案発生により次年度よりパトロール活動を増やす。</p>					
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価					
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている				
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている				
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。				
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含め○○た検討が必要である。					
今後の取り組みの方向性		拡充	今後の方針 (Action)	各関係諸団体と密接な連絡を取り、町内青少年の健全育成と非行防止活動に努めたい。		
	○	継続				
		縮小				
		見直し				
		休廃止				
二次評価 (外部)	B	継続	定期補導や子どもたちとの交流活動により、青少年の健全育成が図られている。			

令和2年度（平成31年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	6
事業名	成人式					教育振興 計画の体 系	基本方針1
事業費 (千円)	平成30 年度	642	令和元 年度	658	所管係	社会教育係	
事業目的	町をあげて人生の節目を祝うことで、ふるさとに誇りを持ち、厳しい時代に打ち勝つ 逞しい社会人になるとともに、将来の地域の担い手として大きく前進することを願って 実施する。						
事業内容 (Plan)	式典の対象となる新成人に企画から運営まで関わってもらうことで、新成人としての 自覚を持ち、家族はもとより今まで関わってくださった多くの人々に感謝し、主体性と 責任感を持ち合わせた人間として育つよう、思い出の残る充実した成人式を実施する。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>8月に新成人と打合せ会を開催し、記念品の選定・式典当日の役割分担（司会等）の 協議や、司会者との年末のリハーサルなど、新成人と企画段階から関わりを持つことで 信頼関係も深まり、スムーズな式典運営が図れている。</p> <p>また、新成人が企画段階から運営まで携わることで自らも責任感等が芽生え、それが 式典の進行や雰囲気にも良い影響を与えている。さらに、成人者の多くが参加している ことから、その成果が伺える。</p> <p style="text-align: center;">成人式対象者数 120名 参加者数 97名 (平成30年度114名) (平成30年度86名)</p>						
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検 討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性	○	拡充 継続 縮小 見直し 休廃止	今後の方 針 (Action)	新成人が企画運営に携わる良い伝統を継承しつつ、 今後も思い出の残る良い成人式を新成人とともに考え 運営していく。 また、成年年齢引下げ等の問題については、国の指 針（情報等）や、他市町村の動向等も踏まえ検討を進 めていく。			
二次（外 部）評価	A	継続	新成人の実行委員会の企画・運営により、主体的な成人式となってい る。参加者数の割合も高く、目的も達成できている。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	7
事業名	学校活性化協議会					教育振興計画の体系	基本方針1・3
事業費(千円)	平成30年度	195	令和元年度	355	所管係	学校教育係	
事業目的	海陽町教育委員会の権限と責任の下、海陽町内の各学校および教育全般の諸課題について学校運営の改善や児童生徒の健全育成および町全体の教育内容の向上について取り組む。						
事業内容(Plan)	大きく3つの役割をもつ。一つ目は、各小中学校の学校運協議会の要としての役割である。二つ目は、町全体の教育課題を協議する役割である。三つ目は、土曜学習のまとめとしての役割である。そのため、中学校長2名、小学校長3名、小中PTAから1名ずつ、有識者5名と教育長、教育次長、CS担当職員の17名で会を構成し運営をした。主な教育課題としては、各小中学校の運営上の諸課題、海部高校の魅力化推進、土曜学習の在り方、等があげられる。						
事業の実施状況及び成果等(Do)	<p>年間を通じて5回の会を開催した。主な協議内容を挙げる。</p> <p>第1回(5月) 組織の立ち上げ 各小中学校の本年度スタート状況</p> <p>第2回(6月) 各小中学校の学校運営協議会立ち上げ状況、夏休み中の土曜学習の計画状況、海部高校の魅力化について</p> <p>第3回(8月) 海部高校校長藤川卓司氏を招いての話し合い、海部高校説明会の実施の決定</p> <p>第4回(10月) 夏休み中の土曜学習の実施状況報告、コミュニティスクール研修会への参加について海部高校説明会開催にあたっての最終確認(11/30実施 参加者45名)</p> <p>11月・12月実施の土曜学習について</p> <p>第5回(2月) 今年度の反省と各学校運協議会活動報告</p>						
一次(内部)評価(Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取り組みの方向性	○	拡充 継続 縮小 見直し 休廃止	今後の方針 (Action)	今後も海陽町の教育課題について幅広く意見を聞く場としての役割を果たしたい。			
二次(外部)評価	B	継続	規則の見直しを図ったことで、学校活性化協議会の役割がはっきりとした。今後も、子どもたちの健やかな成長のために、様々な角度からの活発な意見交換を期待する。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	8
事業名	スポーツ少年団助成					教育振興 計画の体 系	基本方針 1 ・ 3
事業費 (千円)	平成30 年度	405	令和元年 度	405	所管係	学校教育係	
事業目的	スポーツ少年団の普及と育成及び活動の活発化を図り、青少年にスポーツを振興し、 以て青少年の心身に健全な育成を資することを目的とする。						
事業内容 (Plan)	スポーツ少年団への活動費助成（野球、バレー、ミニバスケットボール、卓球等） 年一回、スポーツ少年団フェア（町内一斉奉仕清掃）などの活動をしている。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	各スポーツ少年団が様々なスポーツ活動を行っていることにより、青少年の心身と健 全をはかることができた。 各種スポーツ大会（野球、バレー、ミニバスケットボール、卓球等）に32回開催され た大会に参加。						
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検 討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	スポーツ少年団については、少子化のため、各クラブ の存続ができず、低年齢とともに町越えてのチーム構 成となっている。できるだけ町内でチーム編成ができ る体制整備と中学校へのスムーズな繋ぎ、指導者の発 掘と育成が早急な課題となっている。			
	○	継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次（外 部）評価	B	継続	児童数の減少により、各クラブの活動が十分にできない状況となってい る。町内での連合体制の構築を目指していただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	9
事業名	特別支援教育の充実（巡回相談員の配置）					教育振興 計画の体 系	基本方針 2・4
事業費 (千円)	平成30 年度	808	令和元年 度	927	所管係	学校教育係	
事業目的	障がいにより特別な支援を必要とする児童生徒に対して、支援体系の整備促進を行い、将来的に社会に適応し、充実した生活を送ることができる力を育む						
事業内容 (Plan)	(1)特別支援連携協議会（年2回） ・ ・ ・ 地域を含めた関係機関が連携し、特別支援の整備促進を行う。 (2)教育支援サポートチーム（年3回・研修会1回） ・ ・ ・ 特別支援学級等の就学についてのサポートを行う。 (3)巡回相談員事業（小児科医・臨床心理士・言語聴覚士） (4)特別支援教育教材整備						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	(1)～(4)について、以下の通り、実施。 (1)特別支援連携協議会（2回 うち1回講演会(赤壁省吾氏)） (2)教育支援サポートチーム （定例会3回・講演会1回(三浦光哉氏)・学習会1回(ひわさ分校 伊成氏)） (3)巡回相談員事業（小児科医3回・臨床心理士11回・言語聴覚士2回） (4)デジタル教科書購入（海部小学校5冊） 地域連携協議会についてはこれまで教員対象であった講演会を地域機関に広げた参加とすることで共通理解を深めることができた。サポートチームはスクリーニング検査から特別支援学級入級についての保護者の希望を受けるまでスムーズに進めることができた（相談者16名 入級希望名(通級2名・特別支援学級10名)）。巡回相談員については臨床心理士(外儀やよひ氏)の相談希望者が多く、希望通りにいきにくい場合もあった。特別支援学級の教材としてタブレットを使用したデジタル教科書購入についての希望があり、必要数の購入を行った。						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		拡充 ○ 継続 縮小 見直し 休廃止	今後の方 針 (Action)	今後も地域・学校を対象として、特別支援の理解、体制整備を促進していく。 ワーキングチームを立ち上げ、町の特別支援の在り方について検討していく。 相談増の状況からニーズに対して対応できる人員の不足が考えられるため、それらについてもチームの中で検討していく。			
二次評価 (外部)	B	継続	計画通りに事業が実施できており、支援を必要とする児童生徒の支援やその体制づくりが効果的にできている。 相談増のニーズに対応できるよう、人的な配置も考えていただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	10
事業名	スクールカウンセラー・ スクールソーシャルワーカー活用					教育振興 計画の体 系	基本方針 2・4
事業費 (千円)	平成30 年度	0 (県費のみ)	令和元年 度	0 (県費のみ)	所管係	学校教育係	
事業目的	いじめや不登校、虐待等、児童生徒や家庭の課題に対して、相談活動あるいは支援機関との連携により、解決・改善することを目的とする。						
事業内容 (Plan)	○スクールカウンセラー 宍喰中学校区（宍喰中学校・宍喰小学校）1名 海陽中学校区（海陽中学校・海南小学校・海部小学校）1名 ○スクールソーシャルワーカー 海陽町内小中学校 1名 上記のように各校に配置し、相談事業を実施する。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	（相談回数） スクールカウンセラー：海陽中学校区で週1回の相談を実施 宍喰中学校区で週1回の相談を実施 スクールソーシャルワーカー：海陽町内小中学校で2週に1回の相談を実施 （相談件数） スクールカウンセラー 宍喰中学校区 114件 海陽中学校区 87件 スクールソーシャルワーカー 64件 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを配置し、家庭や教員からの申し込みにより、生徒や保護者、教員の悩みや問題に対する面接及び訪問相談を行った。						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		拡充 ○ 継続 縮小 見直し 休廃止	今後の方 針 (Action)	スクールソーシャルワーカーについては日数が少なく、十分な対応が難しいため、県に要請し、週1回の配属を希望していく。			
二次評価 (外部)	B	継続	いじめや不登校、虐待等、児童生徒や家庭の課題に対して、相談や関係機関へのつながりが素早くできるよう、人的配置を県教育委員会へ積極的に働きかけていただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	11
事業名	町費助教諭と特別支援教育支援員の配置					教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	58,650	令和元 年度	53,739	所管係	学校教育係	
事業目的	言語・難聴・LD（学習障害）・ADHD（注意欠陥多動性障害）等の障がいをもつ、または介助を要するなど特別な支援を必要とする児童生徒の学校生活を支援し、特別支援教育の充実を図る。						
事業内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする児童生徒の安心・安全の確保。周囲の児童生徒とのコミュニケーション作りを通して、学校生活を豊かに過ごせるよう支援する。 支援を必要とする児童生徒の人数・状況を把握し、県費教員数では対応できない部分へ町費助教諭を配置し、対応していく。 						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする児童生徒に対し、授業等における学習指導の支援・校外行事等における安全確保の支援及び校内における生活指導の支援等。 <p>（教育支援委員会判定結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級に在籍することが必要な児童生徒 61名（うち1対1対応が必要と学校等からの意見や希望があった児童・生徒 16名）それらの児童生徒のニーズに合わせて、町費助教諭を配置した。（令和元年度 配置教員数 16名） <p>成果</p> <p>子ども一人一人の実態に応じたきめ細かな指導ができ、基礎基本の定着が図れた。また、ティーム・ティーチング・グループ学習・個別学習など指導方法等の充実を図ることができた。</p>						
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 休廃止	今後の方 針 (Action)	対象児童生徒の障害の正確な情報を収集し、就学指導委員会との連携を一層密にし、適正な支援員配置に努める。			
二次（外 部）評価	A	継続	多様な指導方法の実践により、子ども一人一人の実態に応じたきめ細かな指導ができており、特別支援教育の充実が図れている。今後も人材確保に努めていただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	12
事業名	学力向上推進					教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	0	令和元 年度	0	所管係	学校教育係	
事業目的	学校と家庭が連携し、基本的な生活習慣や学習習慣の育成を図り、確かな学力の向上と定着を目指すための町費助教諭の配置・学習環境の整備						
事業内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の目標の明示や振り返りを行い、また、基礎的・基本的な知識・技能が身につくように分かりやすい授業の展開。 ○家庭学習への積極的・主体的な取り組みの促進。 ○教員の指導力の向上を図る。 ○少人数指導等指導形態の工夫を図る。 						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習や個別指導等の指導形態の工夫、授業構想シートの有効活用など分かりやすい授業を心がけることができた。 ・定期テスト前に家庭学習時間調査を実施した。また生徒には「学力シート」を用いて学習意欲の向上を図ることができた。 <p>成果</p> <p>学力調査等のきめ細やかな分析に基づき、授業力の向上のための助言や指導を行うとともに、人数の多い学級にサポーターを配置し、国語、算数（数学）の少人数指導の充実を図ることで、基礎学力の向上に努めた。</p>						
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	<ul style="list-style-type: none"> ○学力の二極化傾向は改善されておらず、真剣に学習に取り組む生徒とそうでない生徒の差が大きい。「授業が分かりやすい」生徒は増加している一方で、勉強の苦手な生徒には適切な課題を与えつつ、よりきめ細かな指導を展開していく。 ○各教科や朝自習等で学力向上確認プリントを使用して「活用力」を高めていく。 ○発表の場面において、プレゼンテーションソフトの活用やホワイトボードの使用、レポートにまとめるなど、様々な工夫をする。 			
	○	継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次（外 部）評価	B	継続	教師の指導力向上のために、さらに校内研修の機会を増やして欲しい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	13
事業名	幼児教育の充実					教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	29,382	令和元年 度	29,949	所管係	学校教育係	
事業目的	園児及び保護者に対して質の高い教育を提供できるように職員研修の充実を図り、また、育ちの連続性をふまえ保育所、幼稚園、小学校、中学校との連携の強化を図る。						
事業内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> 講師を迎え、職員対象に研修をする。 教育カリキュラムの接続のため、保育所、幼稚園、小学校、中学校の職員で合同研修を行う。 育ちの連続性をふまえた教育を意識して教育活動を行う。 						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> 講師を迎え、職員対象に研修を行った。 ◎特別支援研修会 阿南支援学校ひわさ分校の先生の「まなびの教室」を受講し、年間6回来園していただき、2月には園内報告会をもった。その中で、県特別支援課の先生ともAI-PAC（早期療育プログラム）を通して学びを深めた。今年度も引き続き行う。 ◎人権教育の基礎的学びの充実を図る。 ◎学校訪問で学んだ教育の方法を実践していく為の研修 <ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、海南保育所、海南小学校と行事で交流を行った。 育ちの連続性ふまえた教育課程を作成した。 						
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	今後も職員対象に研修会を実施し、また、保育所（園）、幼稚園、小学校、中学校と連携を強化するため、合同研修を目指す。			
	○	継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次（外 部）評価	B	継続	育ちの連続性をふまえた教育内容の充実や保・幼・小・中・高の連携をこれからも図っていただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	14
事業名	通学補助金交付					教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	1,037	令和元年 度	1,187	所管係	学校教育係	
事業目的	遠距離通学費に要する経費の一部又は全部を補助し、保護者の経済的負担の軽減と対象児童・生徒の通学の安全を図る。						
事業内容 (Plan)	<p>「海陽町遠距離児童、生徒通学費補助金交付要綱」の規定により補助を行う。</p> <p>(1) 小学校4km以上の遠距離通学の児童に交通機関の運賃に対して助成金を支払う。</p> <p>(2) 中学校6km以上の遠距離通学の生徒に交通機関の運賃に対して助成金を支払う。</p> <p>(3) 上記遠距離通学者で、自転車通学が認められる児童生徒には自転車購入に対して助成金を支払う。</p> <p>(4) 次の〈1〉～〈3〉の全てに該当する者に助成金を支払う。</p> <p>〈1〉海陽町教育委員会が指定校変更を認めた者</p> <p>〈2〉校区をまたいでの遠距離者（距離数は従来どおりで交通機関を利用）</p> <p>〈3〉海陽町教育委員会が助成が適当であると判断した場合</p>						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>【令和元年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海南小学校 自転車購入助成（4km～） 0円 《H30年度 0円》 ヘルメット購入助成（2～4km） 0円 《H30年度 0円》 ・栄喰小学校 バス代助成（回数券・定期券購入） 4名 36,140円 《H30年度 5名 81,800円》 ・海陽中学校 バス代助成（定期券購入）川上地区 9名 1,063,620円 《H30年度 8名 916,560円》 自転車購入助成（6km～） 1名 50,000円 《H30年度 0円》 J R助成（定期券購入）（6km～） 1名 36,860円 《H30年度 1名 36,520円》 						
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	今後も事業目的を継続し、保護者の経済的支援に努める。			
	○	継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次（外 部）評価	B	継続	遠距離通学者の通学に要する費用の助成により、保護者の経済的負担軽減と児童・生徒の通学の安全が図られている。継続していただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	15
事業名	町内園・校長会の開催					教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	0	令和元年 度	0	所管係	学校教育係	
事業目的	教育委員会と学校現場が互いに共通認識・共通理解を図り、より良い学校教育を推進するとともに海陽町の教育の充実を図る。						
事業内容 (Plan)	町内の園・小中学校及び海部高校の校長が毎月（8月除く）、その時々のも多種多様なテーマのもと、情報交換を行い、共通理解を図っている。 特に本町の特色として、幼稚園から高校まで、縦の繋がりを重視し、一貫した教育について、伝達事項・確認事項をはじめ、教育課題の解決に向けた話し合いを進めている。 また、緊急を要する場合は、臨時の園・校長会を開催し、速やかな対応を行っている。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年4月11日（11協議ほか） ・平成31年4月23日（2協議ほか） 臨時会 ・令和元年5月28日（11協議ほか） ・令和元年6月27日（9協議ほか） ・令和元年7月10日（11協議ほか） ・令和元年9月26日（10協議ほか） ・令和元年10月21日（5協議ほか） ・令和元年11月21日（7協議ほか） ・令和元年12月17日（8協議ほか） ・令和2年1月27日（7協議ほか） ・令和2年2月28日（7協議ほか） ・令和2年3月4日（9協議ほか） <p>※幼小中高の連携が深められ、海陽町の教育目標の具現化とその実践に向け取り組めた。</p>						
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	引き続き、毎月定例園・校長会を実施し、より良い学校教育の推進と海陽町の教育の充実に努める。			
	○	継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次（外 部）評価	B	継続	幼稚園・小学校・中学校・高校・町教委が互いに共通認識・共通理解を図ることで一貫したより良い学校教育が推進できている。継続していただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	16
事業名	学校図書館の充実					教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	1,183	令和元 年度	1,227	所管係	学校教育係	
事業目的	各学校の図書充足率向上を目指すとともに、児童・生徒の本に親しむ機会をつくり、学力の向上、調べ学習や読書活動の充実を図る。						
事業内容 (Plan)	小中学校図書館の図書購入。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>子どもの豊かな読書経験の機会を充実させていくためには、子どもの知的活動を増進し、多様な興味・関心に応える魅力的な図書を整備・充実させていくことが必要であり、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等において多様な教育活動を展開していくためにも、図書の充実を図る。</p> <p>令和元年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海南小学校 162冊 300,000円 ・海部小学校 63冊 178,975円 ・宍喰小学校 181冊 298,810円 ・海陽中学校 187冊 244,800円 ・宍喰中学校 98冊 204,900円 						
一次（内 部）評価 (Check)	A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている						
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
		D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。					
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	今後も、児童・生徒の本に親しむ機会をつくり、学力の向上や調べ学習や読書活動の充実を図る。			
	○	継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次（外 部）評価	A	継続	図書購入費用も十分で、学校図書館の整備充実が十分に図れており、子どもたちの読書活動の推進に繋がっている。これからも魅力ある学校図書館運営を期待する。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	17
事業名	中学校部活動運営（合同体制）の充実					教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	1291	令和元年 度	939	所管係	学校教育係	
事業目的	海陽中・宍喰中の部活動を維持し、町内中学生の部活動選択肢を総合的に広げ、有意義な中学校生活につなげることを目的とする。						
事業内容 (Plan)	<p>○部活動バスを活用して、部活動の現状体制を維持する。</p> <p>①単独・合同チームの送迎（週3回程度）に活用する。</p> <p>②土・日祭日において、他校への合同練習・練習試合等に活用する。</p> <p>③宍喰中から海陽中・牟岐中までの送りバスを運行する。（週3日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・往路 宍喰中→海陽中（サッカー）→牟岐中（体操） ・復路 海陽中（サッカー）→宍喰中 <p>○部活動指導者研修会を開催し、指導者の指導力向上と生徒の体力・スキル向上を図る。</p>						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>○部活動バスについて</p> <p>単独・合同チームの練習・試合等でチームの強化・充実が図られた。海陽中・宍喰中の野球・サッカー部が合同チームを組んだ。また、バレー部も新チームから活動した。特に、宍喰中バレー部が県大会上位進出を果たし活躍した。</p> <p>・使用日数 平成29年度69日（海・宍共有1台） 平成30年度125日（12月より2台） 令和元年度126日（3月コロナ0日）</p> <p>○送りバスについて</p> <p>送りバス利用により、指定校変更や区域外就学をすることなく宍喰中学校の生徒維持が保たれた。</p> <p>また、宍喰中卓球部も奥浦体育館使用時送りバスを使用した。（月平均2回程度）</p> <p>・使用日数 平成30年度119日 令和元年度122日（3月コロナ0日）</p> <p>○部活動指導者研修会（2回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月19日「スポーツ障害の軽減とパフォーマンス」早川家正氏（日本教育シューズ協議会理事）24名参加 ・11月26日「ケガをしない体力づくり」柘植龍治氏（ヴォルティス推進リーダー）29名参加 						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性	○	<p>拡充</p> <p>継続</p> <p>縮小</p> <p>見直し</p> <p>休廃止</p>	<p>今後の方 針 (Action)</p>	<p>○町内2校中学校の部活動を維持し、町内中学生の部活動選択肢を広げ、有意義な中学生生活に繋げるように努めたい。</p> <p>○部活動の活性化・施設の有効利用・活動の工夫・指導者の向上に繋ぎ、指定校変更や区域外就学者の防止に努めたい。</p>			
二次評価 (外部)	A	継続	町内の部活動の合同体制が機能し、指定校変更や区域外就学者がいなかった。また、指導者への研修会実施により、指導力向上も図られている。継続していただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	18
事業名	地元高校魅力化推進補助					教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	7,497	令和元 年度	9,068	所管係	学校教育係	
事業目的	人口減少が急速に進む地域の高校において、地域の新たな活力を創出するため、特色ある教育や学校の活性化を図り、生徒や保護者の関心を惹きつけるとともに、魅力ある教育により子どもへの支援を通して、生徒の維持、高校存続に努める。						
事業内容 (Plan)	(1) 学力向上に関する助成補助 基礎学力や実力養成のための通信衛星講座・スマホ学習等 (2) 文化教養を高める助成補助 海外短期留学・英検・英語小中高交流体験・京都賞など (3) スポーツの振興に関する助成補助金 バスケットボール・野球・他の部活動の遠征・強化補助 (4) 入学に関する補助金 人材育成PR動画の作成・高校地域説明会等						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	(1) 学力向上に関する助成補助 大手予備校の通信映像の駿台サテネットのシステムの利用や、自宅でのスマホ学習は、受講者に刺激を与え、基礎基本の大切さや予習・復習の継続性の必要性を実感させ、個々の生徒の学習意欲の喚起・学力向上に大きく寄与した。 (2) 文化教養を高める助成補助 7/31(水)～8/14(火)14日間 留学先 オーストラリア 7名(1年生5名・2年生2名) (3) スポーツの振興に関する助成補助金 バスケットボール部 全国高等学校総合体育大会出場(鹿児島) 全国高等学校バスケットボール選手権大会出場(東京) 地元高校育成奨学金(男子バスケットボール部員1名) (4) 入学に関する補助金 海部高校PR動画の作成・高校体験入学等補助・入学説明会等						
一次(内 部)評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性	○	拡充	今後の方 針 (Action)	8月6日に実施した中学生を対象とした体験入学では、昨年に比べ県外中学生の参加が大幅に増加している。(H30:4名→R元:16名) 今後、県外からの入学生の増加が予想される為、県外生に安心して海部高校を受験してもらえる受け入れ体制を整備し、地域住民と県外生の交流による地元愛を育む機会の創出や支援等行う。			
		継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次(外 部)評価	A	拡充	進路の充実やバスケットボール部をはじめとする部活動の活躍により、県内外からの入学生も増加し、学校も地域も元気になっている。現在の海部高校の規模を維持するためにも、地域と一体となって海部高校の支援を続けていただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	19
事業名	スクールバス運営					教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	20,472	令和元年 度	16,185	所管係	学校教育係	
事業目的	遠距離通学児童の利便性および安心・安全な通学を推進する。						
事業内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・園児・児童の登下校及び校外活動に運行する。 ・「海陽町スクールバス運営委員会」を開催し、スクールバスの運営を円滑に行う。 						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・海南小学校（浅川線・相川線・小川線）・海部小学校・宍喰小学校の5台を運行。 令和元年度事故の件数は無し。 ・5/28川崎市多摩区で起きた無差別殺傷事件を受け、安全対策についてスクールバス運転手と 連絡会を行う（5/30） （乗降場所の確認と乗降者の確認、運行ルートの確認、災害時のマニュアル確認と不審者発見 時の対応について、災害時等連絡体制の確認、不審者情報の共有） ・幼稚園の送りバス運行について打合会(10/18) 園児1名（転居：神野→平井）の送りバスは幼稚園便ではなく兄が乗る小学校便に同乗。 ・「海陽町スクールバス運営委員会」を開催（3/18） 翌年度におけるスクールバスの運行経路・乗車園児児童の確認 						
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	今後も安心安全なスクールバスの運営に努めていく。			
	○	継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次（外 部）評価	B	継続	スクールバスの安全な運行や充実した体制により、事故もなく、子どもたちの安心で安全な通学が保証されている。今後も安全な運行を続けていきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	20
事業名	学校施設整備					教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	49,816	令和元 年度	174,266	所管係	学校教育係	
事業目的	児童生徒の通う学校施設の維持管理及び運営を適正に行い、安全・安心な教育環境を将来に渡って提供する。						
事業内容 (Plan)	<ol style="list-style-type: none"> 水道光熱費や学校配当予算等、学校運営・教育活動の諸経費負担。 賃借等による教育用事務機器等の配備。 各種附属設備の管理委託及び校舎補修・校庭整備。 遊具の点検委託及び補修。 児童及び職員用机・椅子、その他の学校備品の購入。 老朽化に伴う改修工事の実施。 						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>○海南小学校キャットウォーク天井改修工事 ・事業費1,858千円（委託費含む）</p> <p>○海南小学校放送設備改修工事 ・事業費2,503千円（委託費含む）</p> <p>○宍喰中学校トイレの洋式化工事 ・事業費11,292千円（委託費含む）</p> <p>○各小学校中学校エアコン整備 ・事業費158,613千円（委託費含む）</p>						
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 休廃止	今後の方 針 (Action)	老朽化した学校施設・設備の計画的な更新が必要。児童数の増減を適切に把握し、長期的視野に立った更新について検討していく。 令和2年度予定として ・宍喰中学校防火扉 ・海陽中学校トイレの洋式化等			
二次（外 部）評価	A	継続	町内の小中学校のすべての普通教室と使用頻度の高い特別教室にエアコンが整備され、子どもたちは快適で安全な教育環境の中で学習活動ができる。教育効果を期待する。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	21
事業名	学校給食の充実 (地産・地消、給食センター運営)					教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	101,351	令和元年 度	57,232	所管係	学校教育係	
事業目的	地域への愛着、農業への興味や理解を深め、食に対する正しい考え方を身につけてもらうことを目的で安全安心な地場産物を「給食」に活用。						
事業内容 (Plan)	安心安全な地産地消を取り入れた魅力のある給食を提供する。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・海陽町産の米、野菜類などを活用。阿波尾鶏は月1回使用。 ・海陽町の食材を味わう日として毎月19日を「食育の日」としている。 4月:にんじん 5月:ひじき 6月:トマト 7月:おくら 9月:なす 10月:阿波尾鶏 11月:さつまいも 12月:大根 1月:里芋 2月:菜の花 3月:きゅうり 						
一次(内 部)評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 休廃止	今後の方 針 (Action)	今後とも、引き続き地場産物を活用し、安全安心な給食の提供に努める。			
二次(外 部)評価	B	継続	地場産物を学校給食に活用し、食に関する指導の教材として用いることにより、子どもたちが、より身近に、地域の自然、食文化、産業等について理解を深めることができている。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

					評価番号	22
事業名	食育の推進				教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	0	令和元年 度	0	所管係	学校教育係
事業目的	学校を中心に家庭や地域と連携を図りながら、さまざまな学習や体験活動を通して食に関する関心や理解を高め、子どもの健全な食生活の実現と豊かな人間形成を図る。					
事業内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・「海陽町学校食育推進委員会」を開催する。 ・地場産食材を使用した学校給食の日々の献立を通して、子どもたちの地域の農林水産物や産業への理解を深め、郷土への愛着を深める。 ・食生活アンケートの実施や県食育推進パワーアップ作戦の授業を実施し、食育の推進を図る。 					
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・「海陽町学校食育推進委員会」 6/27開催 ・海陽の食材を味わう日（毎月19日）に海陽町産食材を使った学校給食献立を実施。広報として「海陽の食材便り」を発行。 ・卒業生に「子どもあゆみ事業（卒業生地産地消食材費補助）」より阿波尾鶏の卵を使ったプリンと焼き菓子を提供。 ・食生活アンケートの実施（7月） ・徳島県学校食育推進パワーアップ作戦で町内の該当学年で同じ学習内容を教諭等と栄養教諭によるTT授業で実施。（小学2・3・4年、中学1・2年）また、パワーアップ作戦の対象でない学年においても、給食の時間などを活用した栄養教諭による食に関する指導を進めた。 <p>子どもたちの食生活に関する正しい理解と望ましい習慣の醸成のため、上記事業を行い食育の推進に努めた。</p>					
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価					
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている				
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている				
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。				
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。					
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	今後も引き続き事業内容を継続し、食育推進に努める。		
	○	継続				
		縮小				
		見直し				
		休廃止				
二次（外 部）評価	B	継続	食育に関する様々な事業により、子どもたちの食への関心や理解が深められ、健全な食生活につながっている。			

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	23
事業名	防災教育の推進					教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	0	令和元 年度	0	所管係	学校教育係	
事業目的	学校における防災教育の充実を図り、災害が発生した場合に、自らの身を自らで守れるよう児童生徒の防災力を育む。						
事業内容 (Plan)	○地震等の災害を防止軽減するための時間帯に応じた具体的な対処行動を避難訓練を通して、児童生徒によく理解させ、しっかり身につけさせる。 ○毎年学校防災管理マニュアルの見直しを図るとともに、年間計画に、防災計画、避難訓練を位置づける。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・津波発生時の対応訓練の実施。（水平避難・垂直避難） ・火災発生時の対応訓練の実施。 ・水難救助訓練の実施。（人工呼吸・AEDの使い方） ・消火訓練の実施。（消火器の使い方） ・土曜学習として防災学習の実施。（町内小学校5年生を対象に8月実施） ・町防災避難訓練への参加。（12月実施） <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年や発達に応じて教材研究と授業実践を行ったことで、防災に対する意識が高まり、知識が増え、実践力が身に付きつつある。 ○自分たちのくらしや命を守るための自治体の取り組みについての理解を深めたり、体験を通して災害の怖さを理解したりすることができた。 						
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	自分の命は自分で守れるよう、継続的な防災訓練等を積み重ねていく。			
	○	継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次（外 部）評価	B	継続	防災訓練の計画的な実施により、教職員や子どもたちの防災意識も高まっている。今後は地震・津波に対応した実践的な訓練を地域や関係機関と連携して進めていただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	24
事業名	町奨学金貸与・おかえReターン海陽奨学金支援制度					教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	18,180	令和元 年度	22,176	所管係	学校教育係	
事業目的	1. 経済的理由により修学が困難な者に対して奨学金を貸与する。 2. 返還助成制度により、本町へのUターン及び定住、地元就職の促進を図る。						
事業内容 (Plan)	1. 町奨学金貸与について ・海陽町奨学金貸与条例に基づき、毎年4月初旬までに申請、4月下旬審査会、5月上旬決定通知、5月中旬誓約書等の提出後、5月末までに1回目の貸与、以後計4回に分けて貸与。 2. おかえReターン海陽・奨学金支援制度について ・Uターン就職者の奨学金返還を支援する制度で、4年制大学卒業者の場合、年間最大24万円を最長10年間助成する。対象奨学金は町奨学金、日本学生支援機構奨学金、県社会福祉協議会教育支援資金の3種類。特色としては、海部高校卒業生も対象としている。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	1. 町奨学金貸与について 奨学生審査委員会(5/7)で審査 ・貸与決定者8名 内訳(高校等1名3年間、大学等2名2年間、2名3年間、3名4年間) ・継続貸与者26名(高校等1名・大学等25名) (高校等月額15,000円・大学等月額50,000円) 令和元年度貸与額合計 19,560,000円 2. おかえReターン海陽・奨学金支援制度について ○令和元年度 制度開始 (申請受付(5月)→審査→交付決定→奨学金返還完了→実績報告→審査→助成金交付(4月)) ・認定者14名(交付決定者13名) ・助成金 2,600,000円						
一次(内 部)評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	・奨学金貸与については、広報等で経済的支援である奨学金貸与制度の周知を図る。 ・奨学金返還助成制度については、更に制度の周知徹底を図りながら定住・定着に向けて取り組む。			
	○	継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次(外 部)評価	B	継続	・経済的に援助が必要な世帯への助成を行うことで、安心して就学することができている。 ・本町へのUターン・定住・地元就職の促進が図れるよう、おかえReターン海陽奨学金支援制度の周知の徹底と工夫ある運営に努めていただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	25
事業名	子どもあゆみ事業活用					教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	16,879	令和元年 度	15,647	所管係	学校教育係	
事業目的	少子化対策の施策として、安心して子どもを生み育てることができ、次代を担う子どもが健やかに成長できる環境を整備し、子どもの未来に夢や希望を持てる町の実現に資することを目的とする。						
事業内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校学校給食費補助（地産地消分・小6中3地産地消分・給食費） ・第3子以降給食費補助 ・幼稚園給食副食費助成 ・新小中1年生体操服購入費助成 ・第3子以降中学卒業祝金 ・防災教育 ・小学生を対象とした英語教育 ・幼稚園第3子保育料（預かり保育料含む）無償化 						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>【令和元年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食費補助・・・ <ul style="list-style-type: none"> 小学校 延べ2,909人 2,933,102円 中学校 延べ1,943人 2,521,265円 区域外特別支援就学者 延べ30人 33,000円 合計 延べ4,882人 5,487,367円 ・第3子以降給食費補助・・・111人 4,193,818円 ・幼稚園給食副食費助成金・・・27名 295,076円 ・新小中1年生体操服購入費助成・・・75人 374,520円 ・第3子以降中学卒業祝金・・・20人 1,000,000円 ・防災教育・・・「シロのないた海」印刷製本 566,500円 ・小学生を対象とした英語教育・・・臨時職員人件費 3,647,545円 ・幼稚園第3子保育料（預かり保育料含む）無償化・・・7人 81,500円 						
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	今後も子どもを持つ保護者、多子世帯の保護者に対し、経済的支援を行い少子化対策の施策として継続していく。			
	○	継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次（外 部）評価	B	継続	教育関係事業に子どもあゆみ基金を活用することで、次代を担う子どもたちの健やかな成長に役立っている。継続していただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	26
事業名	就学援助					教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	平成30 年度	4,908	令和元 年度	5,245	所管係	学校教育係	
事業目的	経済的理由によって就学が困難な児童生徒の保護者に対して、就学援助費を支給することにより、義務教育の円滑な実施に資することを目的とする。						
事業内容 (Plan)	町内小・中学校に在籍する児童・生徒の保護者が、生活保護を受けているか、世帯全員の収入額が教育委員会の定めた認定基準額を下回る場合対象となる。 認定された保護者に対し、学用品費※、新入学学用品費※、校外活動費、修学旅行費、給食費、学校病医療費、（※が付記された援助費目以外は実費）を支給する。 当事業は一部が国の補助金対象事業となっている。 今年度より、新入学児童生徒準備費の入学前支給を行う。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>【令和元年度実績】</p> <p>要保護世帯10世帯15人・準要保護39世帯54人 (R2. 3. 31現在)</p> <p>・要保護児童及び準要保護児童 支給合計 4,856,485円</p> <p>新入学児童生徒準備費 (R1新規)</p> <p>・小学校新入学 2人 101,200円 (新規1世帯・継続1世帯)</p> <p>・中学校新入学 5人 287,000円 (継続5世帯) 支給合計 388,200円</p> <p>◎支給総合計 5,244,685円</p> <p>国庫支出金 (要保護児童生徒費補助金) 1/2補助</p> <p>学用品費等 小学校 44,000円・中学校 44,000円</p> <p>医療費 小学校 16,770円</p> <p>補助金合計 104,770円</p>						
一次 (内 部) 評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	今後も就学が困難な児童生徒の保護者に対して、就学援助費を支給し、経済的な支援を行う。			
	○	継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次 (外 部) 評価	B	継続	子どもたちの学習環境が十分に整えられるよう引き続き事業の円滑な実施に努めていただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	27
事業名	教育委員会表彰					教育振興 計画の体 系	基本方針6
事業費 (千円)	平成30 年度	0	令和元 年度	0	所管係	学校教育係	
事業目的	海陽町の学業、文化及びスポーツ等の振興に貢献し、その功労又は功績が顕著である個人、団体等を表彰することにより、積極的に学習やスポーツに取り組もうとする意欲やチャレンジ精神を喚起する。						
事業内容 (Plan)	町内の学校の児童・生徒又はその団体で、文化活動又はスポーツ活動において特に優秀な成績を収めたもの、児童又は生徒として他の模範とするに足る行為のあったもの、その他表彰に値すると認める成績又は行為のあったものに対し表彰する。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	町内の学校の児童・生徒、又はその団体で、文化活動又はスポーツ活動において特に優秀な成績を収めたもの、児童又は生徒として他の模範とするに足る行為のあったものに対し表彰状を授与した。 海部小学校 3名（学術・芸術・文化 3名） 海陽中学校 7名（スポーツ 4名、学術・芸術・文化 3名） 宍喰中学校 7名（スポーツ 7名）						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性	○	継続	今後の方 針 (Action)	これからも、学業や文化活動、スポーツ活動においてより多くの児童・生徒に活躍できる場を提供し、何事にも意欲的に取り組めるよう促していきたい。			
		拡大					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次評価 (外部)	B	継続	表彰により、子どもたちが学習やスポーツ・文化活動等に取り組む励みとなっている。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	28
事業名	公民館活動					教育振興 計画の体 系	基本方針3
事業費 (千円)	平成30 年度	1,218	令和元 年度	842	所管係	社会教育係	
事業目的	地域の連帯感を醸成し、学校などの関係機関、団体と連携して、地域に根ざした公民館活動を展開する。						
事業内容 (Plan)	地域意識の希薄化・コミュニティの弱体化が進むなか、地域活動の拠点である公民館を中心として、地域の方が交流親睦を深められるような活動を推進していく。年度当初に会議を持ち年間計画を話し合い、その次に球技大会や共楽運動会などの打ち合わせの会、その後反省会などを持ちつつ、年間行事を進めている。また、公民館活動の理解促進、活動周知等を主たる目的とし活動状況の広報をする。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	各公民館で会議を持ち、各々年間計画に基づいて事業を進めている。会では各分館の状況などに合わせて事業内容を変更したり、次年度に向けて改善の案なども出て活発な意見交換ができています。また2カ月に1度、公民館活動を公民館報でお知らせし活動状況を発信している。結果、地域の人々と顔と顔を合わせて話をする機会が持っており、各分館で各自活発に地域の活動にも取り組んでいる。また分館交流グラウンドゴルフ大会や公民館大会を行うなど公民館活動について住民みんなが学び考え、交流できる活動を開催できていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公民館大会は中止となった。今年度は交流グラウンドゴルフ大会参加者83名（去年度81名）公民館大会テーマ「公民館がひらく日本の未来」（去年度参加者約225名）。						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
		B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
	○	C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		○	拡充 継続 縮小 見直し 休廃止	今後の方 針 (Action)	今後も地域交流の場である公民館活動を進めていく。		
二次評価 (外部)	B	継続	公民館が地域住民にとって最も身近な社会教育の拠点として、また、交流の場としての重要な役割を果たしている。今後は、子どもや若者、働き盛りの世代も含めて、地域住民全体が気軽に集える場になることを期待する。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	29								
事業名	社会教育施設の充実（公民館・体育施設も含む）					教育振興 計画の体 系	基本方針3								
事業費 （千円）	平成30 年度	46,888	令和元年 度	56,073	所管係	社会教育係									
事業目的	海南文化村・公民館・体育施設等の町社会教育施設の維持管理や利用促進に努め、地域住民の自主的な社会教育活動の推進・充実を図る。														
事業内容 （Plan）	町社会教育の拠点施設である海南文化村を中心に、公民館施設や体育施設などの維持管理や利用促進に努め、住民が社会教育活動へ参加しやすい環境づくり等に取り組む。														
事業の実 施状況及 び成果等 （Do）	<p>町内社会教育施設については、地域コミュニティの形成や、地域スポーツ・文化活動の推進や育成という意味で、非常に重要な役割を担っており、多くの団体・チーム等が利用していることから、その必要性和成果が伺える。</p> <p>引き続き、施設・設備等の維持管理（保守・修繕等）や利用促進に努める。</p> <p>○主な工事費</p> <table border="0"> <tr> <td>・海南文化館屋根等修繕工事</td> <td>8,165千円</td> </tr> <tr> <td>・海南小学校体育館キャットウォーク改修工事</td> <td>1,534千円</td> </tr> <tr> <td>・海部公民館受変電設備改修工事</td> <td>3,267千円</td> </tr> <tr> <td>・相川健康管理センタートイレ改修工事</td> <td>884千円</td> </tr> </table>							・海南文化館屋根等修繕工事	8,165千円	・海南小学校体育館キャットウォーク改修工事	1,534千円	・海部公民館受変電設備改修工事	3,267千円	・相川健康管理センタートイレ改修工事	884千円
・海南文化館屋根等修繕工事	8,165千円														
・海南小学校体育館キャットウォーク改修工事	1,534千円														
・海部公民館受変電設備改修工事	3,267千円														
・相川健康管理センタートイレ改修工事	884千円														
一次評価 （内部） （Check）	事業の達成度評価														
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている													
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている													
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。													
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。														
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 （Action）	引き続き、社会教育施設の維持管理や利用促進等に努め、地域に根ざした社会教育活動拠点の充実を図る。											
	○	継続													
		縮小													
		見直し													
		休廃止													
二次評価 （外部）	B	継続	今後も施設の維持管理に努め、住民が利用しやすい環境づくりを継続していただきたい。												

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	30
事業名	図書館の運営の充実					教育振興 計画の体 系	基本方針3
事業費 (千円)	平成30 年度	27,605	令和元年 度	29,036	所管係	社会教育係	
事業目的	図書その他の資料を収集・整理・保存し、すべての住民に必要な情報を提供するとともに、文化交流や生涯学習の中核的な役割を担う。						
事業内容 (Plan)	1. 貸出業務（館内貸出，相互貸借，移動図書館，団体貸出，学校行間貸出） 2. レファレンスサービス 3. 予約・リクエストサービス 4. コピーサービス 5. ホームページ運営 6. ブックスタート事業 7. マガジンリサイクル 8. 特設コーナー設置 9. シャベらん会読み聞かせ 10. 海部公民館まちライブラリー 11. 阿南図書館電子書籍貸出協力 12. 阿南・那賀・海部定住自立圏事業の促進 13. 学校図書館システム支援 14. お話会開催 15. 植物採集教室開催 15. 名付けの会・工作教室開催 16. 人権学習会開催 17. 絵画等作品展示						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>「いつでもどこでもだれでも」をモットーに、できるだけ多くの方に多くの資料を提供できるよういろいろな事業に取り組んできた。特に、ブックスタートやお話会を中心とした子どもたちの読書推進事業は順調に軌道に乗ってきた。反面、高齢者への図書館サービスを考えた場合、アクセシビリティや視力・聴力に対応した資料提供という点で解決しなければならない課題が多い。6月に実施した子ども対象の「植物採集教室」は土曜学習と協働で行った。参加者の評価も良好であった。名付けの会も含めて今後も継続していきたい。</p> <p>資料の貸出状況については、総数で前年度より8,981冊減少している。要因として、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月の移動図書館車（BM）の学校巡回を控えたことや、館内閲覧制限を行ったことなどの影響が大きい。不測の事態が起こった時の図書館業務のあり方について考えておかなければならない。</p> <p>○貸出状況 貸出総冊数 93,253冊（30年度102,234冊） 一人あたり貸出冊数 10.2冊（30年度10.9冊 県内第1位）</p>						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
	A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている						
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
	C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。						
D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。							
今後の取 り組みの 方向性	○	拡充 継続 縮小 見直し 休廃止	今後の方 針 (Action)	令和2年度には第2次子ども読書推進計画の策定が予定しており、子どもの読書活動をより推進して行くこととなる。また「いつでもどこでもだれでも」のモットーに基づいて今後も様々な活動を続けていく。			
二次評価 (外部)	A	継続	町民1人あたりの貸出冊数が県内1位が続いていることを評価する。だれもが集える魅力ある図書館運営を続けていただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	31						
事業名	文化館の運営の充実					教育振興 計画の体 系	基本方針 3・1・2						
事業費 (千円)	平成30 年度	32,262	令和元 年度	47,634	所管係	社会教育							
事業目的	町民の生涯学習の拠点として、ホール、会議室等を有効に活用し、教育文化活動及び芸術の向上発展に努めると共に、子ども、若い世代、高齢者皆が参加できるような各種イベントを開催し、魅力ある地域づくりの推進を図っていく。												
事業内容 (Plan)	町民の芸術文化活動の発表の場として、映画上映、文化村祭り、文化協会祭、文化祭、公民館大会などを開催し、文化館の利用促進を図っている。又工芸館では、藍染め体験や木工等の体験活動を定期的に行ったり、いきいき館は、町民が自由に利用し各種サークル活動を通して生涯学習の推進を図っている。												
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>映画上映、文化村祭り、文化協会祭、文化祭、公民館大会等を開催する事により、生涯学習活動の場として文化館が有効活用されている事に関しては、地域の貢献度から言うところの成果を収めていると思われる。しかしながら、高齢化社会に伴い各サークル活動も減少傾向で、藍染めや木工体験においても伸び悩みがみられ、イベント自体も縮小傾向となっており全体的に利用者減になっている。又今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策の為、公民館大会が中止になるなど文化館貸館業務にも影響が出た。今後は、ターゲットを絞ったイベントを取り入れたり、色々な体験活動を増やして集客が見込めるようにしていく事で収入アップに繋げていくのが一つの目標である。</p> <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%;">文化館利用者9,893名</td> <td style="width:33%;">(30年度 14,794名)</td> <td style="width:33%;">△4,901名</td> </tr> <tr> <td>文化館使用料 1,826,098円</td> <td>(30年度 2,556,840円)</td> <td>△730,742円</td> </tr> </table>							文化館利用者9,893名	(30年度 14,794名)	△4,901名	文化館使用料 1,826,098円	(30年度 2,556,840円)	△730,742円
文化館利用者9,893名	(30年度 14,794名)	△4,901名											
文化館使用料 1,826,098円	(30年度 2,556,840円)	△730,742円											
一次評価 (内部) (Check)	A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている												
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている											
	C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。												
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。												
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	引続き生涯学習の拠点として、芸能文化活動の推進を図っていくと共に、集客の見込めるイベント等を実施し文化村をもっと活性化できるようにする。又一方で、文化村全体の老朽化により、施設の維持管理にお金が嵩むことが今後の課題である。									
	○	継続											
		縮小											
		見直し											
		休廃止											
二次評価 (外部)	B	継続	今後も町民の生涯学習の拠点として文化館の施設が有効に活用できるような施策を積極的に推進していただきたい。										

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	32						
事業名	文化館自主事業					教育振興 計画の体 系	基本方針3						
事業費 (千円)	平成30 年度	788	令和元年 度	713	所管係	社会教育係							
事業目的	優れた芸術・文化鑑賞の場を提供することで、町民の自主的な文化・芸術活動の推進を図る。												
事業内容 (Plan)	学校・地域・関係機関と密接な連携を図り、映画上映会や、児童演劇巡回公演の開催など、優れた芸術文化を鑑賞する機会を提供する。また、文化館の有効活用も図っていく。												
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>文化村祭での映画上映会を始め、町内小学生を対象とした人形劇公演や、影絵ワークショップなどを開催。優れた芸術文化を鑑賞する機会を提供できたことで、児童や地域住民の芸術文化への高い関心や、情緒豊かな感性を育むとともに、文化館ホールの有効活用も図ることができた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため映画上映が一回中止となった。</p> <p>自主事業参加人数</p> <table border="0"> <tr> <td>映画上映会（年2回開催）</td> <td>438名</td> </tr> <tr> <td>児童演劇公演（人形劇）</td> <td>334名</td> </tr> <tr> <td>影絵ワークショップ</td> <td>53名</td> </tr> </table>							映画上映会（年2回開催）	438名	児童演劇公演（人形劇）	334名	影絵ワークショップ	53名
映画上映会（年2回開催）	438名												
児童演劇公演（人形劇）	334名												
影絵ワークショップ	53名												
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価												
	A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている												
	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている												
	○	C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。											
D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。													
今後の取 り組みの 方向性	○	拡充	今後の方 針 (Action)	集客にむけて引き続き、優れた芸術・文化鑑賞の場を提供していくことで、地域に根ざした芸術文化活動の推進を図っていく。									
		継続											
		縮小											
		見直し											
		休廃止											
二次評価 (外部)	B	拡充	文化館が社会教育の拠点として、多くの住民が学ぶ場になるよう町民のニーズに合った自主事業を積極的に展開していただきたい。										

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	33
事業名	文化協会					教育振興 計画の体 系	基本方針3
事業費 (千円)	平成30 年度	827	令和元年 度	817	所管係	社会教育係	
事業目的	本会は、海陽町に所在する芸術文化団体相互の連絡を密にし、芸術文化の高揚に努めるとともに、町民文化の融和と交流を図り、豊かな郷土文化の創造と発展に寄与する。						
事業内容 (Plan)	※文化協会祭（春）・作品展示（約300点）、芸能発表（90名） ※文化祭（秋） ・海南会場・・・作品展示（約400点）、芸能大会（110名） ・海部会場・・・作品展示（約250点） ・宍喰会場・・・作品展示（約300点）、芸能大会（60名） ※視察研修（36名）京都・福田美術館（嵐山）、石清水八幡宮（八幡市）の文化施設を訪れ会員各自の裾野を広げ知識の向上に繋げている。 ※年間を通じて、三幸館ギャラリーを各団体が1ヶ月から2ヶ月のローテーションで、会員の作品を展示、紹介している。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	○登録（42団体）会員（約500名・個人含む）。 ○文化協会祭は、作品や芸能発表の停滞化、高齢化が加速し、作品鑑賞の来場者数や芸能発表の観客数が頭打ちとなり、何らかの方向転換が必要な状態にある。 ゴールデンウィーク期間中は、子どもも楽しむことができる別メニューとして、文化村祭を同時開催し、お茶席等に相乗効果が現れ家族連れで来場している。 新会長の発案で、県立近代美術館企画展を鑑賞（解説付き）し、研修の一つに加えた。 作品展示に関しては、会場が海南地区に設定されていることもあり、海南地区と海部地区の会員の作品が中心になっている実態があり、宍喰地区の会員の作品を集める方法に課題がある。 また、ホールの舞台での芸能発表の際の問題点として、音響や照明等特殊な設備装置を使用するには、教育委員会職員の協力無しには成り立たない状況である。 会員主体の事業が基本であるが、同様に作品展示の作業も教育委員会職員の協力が必要である。 本年度の文化祭（秋）海南会場は、教育委員会職員OB1名を雇い、照明の操作の職員への指導を兼ねてお願いした。						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		拡充		今後の方 針 (Action)	会員の高齢化が進み、会員内部から事業縮小の意見が出始めている。 一方、新会長就任により、会員の知識向上を目的に研修の機会を新たに計画している。 今後、事業の取捨選択について十分話し合い、本会の目指すべき方向性を共有する必要がある。 (例) ゴールデンウィークは、文化協会祭に代えて文化村祭に一本化するなどを検討する。		
	○	継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次評価 (外部)	B	継続		地域の芸術文化の発展に向けて文化協会の効果的で工夫ある運営に努めていただきたい。文化協会の活動が事務局側の負担になっているのであれば今後検討が必要である。			

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	34
事業名	文化村祭					教育振興 計画の体 系	基本方針3
事業費 (千円)	平成30 年度	1,959	令和元年 度	1,735	所管係	社会教育係	
事業目的	ゴールデンウィーク中に町文化協会祭とあわせて、町の歴史や文化遺産を活用した各種イベントを開催することで、町内外の参加者に郷土の歴史や文化の啓発を図る。						
事業内容 (Plan)	町文化協会・地域ボランティア・町立博物館・その他関係機関と密接な連携を図り、町文化協会祭とあわせて、町の歴史や文化遺産を活用した参加・体験型イベント等を中心とした文化村祭りを展開することで、生涯学習の拠点施設である海南文化村の素晴らしさや、町の歴史・文化の継承及び啓発を図っていく。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>子どもの日の映画上映を始め、海部刀づくりのワークショップや、海部城をテーマとした参加型イベントなどの各種イベントの他、茶道・藍染め体験や、図書館によるブックスタート、地域ボランティアによる屋台等を開催。ゴールデンウィーク中の開催であり、子供を中心としたイベントを展開することで三世代が参加しやすい環境をつくり、より多くの方にご参加をいただいた。</p> <p>また、町文化協会祭とあわせてイベントを展開することで、より効率的に町の歴史や文化を学ぶことができ、今後の郷土文化の継承・啓発という観点からも少なからず成果が伺えた。</p> <p>文化村祭参加人数 映画上映「モアナと伝説の海」＆「クジラの骨」253名 謎解き参加型ゲーム、文化協会作品展示、茶道・藍染め体験他715名</p>						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 休廃止	今後の方 針 (Action)	引き続き、文化協会祭とあわせて開催することで、地域の歴史や文化を学べるイベントを展開し、郷土文化に誇りを持てる人材の育成・歴史や文化遺産の継承につとめる。			
二次評価 (外部)	B	継続	子どもをターゲットとした、町の歴史や文化遺産を活用した参加・体験型イベント等を展開したことが、三世代中心とした文化村祭りが開催されている。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	35
事業名	生涯教育の振興と充実					教育振興 計画の体 系	基本方針3
事業費 (千円)	平成30 年度	1,274	令和元年 度	1,663	所管係	社会教育	
事業目的	人が生涯にわたって学習に取り組み、学びたいときに学ぶことができるよう事業の整備を行い、住民一人一人が学習・学びを続けて豊かな人生を送れるようにするために生涯教育の振興、充実を図る。						
事業内容 (Plan)	住民の文化活動、趣味、レクリエーション活動等の支援をするため各種多様な教室を行っている。陶芸教室や木工体験、藍染体験、藍染教室、レクダンスサークル、成人大学など多岐にわたる活動が行えるよう環境整備をし、住民へ様々な学習・学びの機会の提供を行っている。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>住民の個性を伸ばし、人と人とのふれあいを求める各種の活動を行うことで、町内外の人々との交流、世代を問わない交流が生まれている。また集団活動を通じて自主性・協調性を養うとともに、各教室参加者が各自準備から片付けまでの過程に主体性を持って取り組んでいる。ほかにも文化祭などに出演したり、作品を出展したりとそれぞれに目標を持ち、活動に取り組むことができている。</p> <p>○陶芸教室（年12回） ○木工体験（年93回） ○藍染体験（年32回） ○藍染教室（年16回） ○レクダンスサークル（年24回） ○成人大学（年11回） など</p>						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 休廃止	今後の方 針 (Action)	今後も生涯教育のもと、人々の人生を豊かにする活動、学習が行えるよう環境整備や支援などに努めたい。			
二次評価 (外部)	B	継続	住民の文化活動、趣味、レクリエーション活動等の支援をするため各種多様な教室を開催していることを高く評価する。今後より参加者が増えるよう、ニーズに沿った事業運営を期待する。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	36
事業名	新春ふれあい駅伝大会運営					教育振興 計画の体 系	基本方針3
事業費 (千円)	平成30 年度	540	令和元年 度	540	所管係	社会体育関係	
事業目的	地域スポーツの振興として、駅伝大会を実施することにより、青少年の体力向上や、町内外を問わず普段交流のない年代が駅伝大会を通じて交流することができる。						
事業内容 (Plan)	<p>毎年1月の第3日曜日に100チームを上限として駅伝大会を実施。二部制で、一部は小学生男女、中高生女子のチームが走る。二部は中高生男子、一般（成人）、オープンのチームが走る。また、小学生男子・女子、中高生男子・女子、一般の5部門上位3チームと各区間の区間賞を表彰する。</p> <p>参加者目標数 70チーム</p>						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>申込チーム数は60チームであった。小学生・中高生女子の部門で海陽町のチームが優勝した。この大会を続けていることが選手の育成、町民の健康増進及びコミュニケーションの場となっている。楽しみながら、走る、たすきをつなぐそんな機会の場を提供し続けたい。</p> <p>参加者数 60チーム（70チーム） （ ）は平成30年度</p>						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性	○	拡充 継続 縮小 見直し 休廃止	今後の方 針 (Action)	<p>現在は実行委員会の形をとって運営しているが、実質は行政主導の運営であり、民間を中心とした実行委員会が自主的に運営できるよう変えていく必要がある。</p> <p>参加者数を10%増やす。</p>			
二次評価 (外部)	B	継続	小・中・高・一般と幅広い年代が参加することで、ふだん交流のない年代が駅伝大会を通じて交流することができている。参加チーム数が目標に近づくよう広報等に力を入れていただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	37
事業名	総合型地域スポーツクラブ					教育振興計画の体系	基本方針3
事業費 (千円)	平成30年度	3,500	令和元年度	4,000	所管係	社会体育関係	
事業目的	地域住民によって組織された自主的な総合型地域スポーツクラブが、より積極的な活動が展開でき、クラブの一層の充実・発展を図るとともに、クラブ活動を通じて生きがいのある生活と活力のある社会づくりを形成することを目的として総合型スポーツクラブの運営に対し、補助金を交付する。						
事業内容 (Plan)	各種スポーツ教室（ボクササイズ、エアロビクス、キッズダンス等）、トレーニングジムの運営、イベント（名所ウォーキング、スポーツレクリエーションフェスタ等）、町からの委託事業（介護予防運動、健康相談・検診後の運動支援等） 開催教室数 15教室						
事業の実施状況及び成果等 (Do)	各種スポーツ教室（ボクササイズ、エアロビクス、キッズダンス等）、トレーニングジムの運営、イベント（名所ウォーキング、スポーツレクリエーションフェスタ等）、町からの委託事業（介護予防運動、健康相談・検診後の運動支援等） 参加者数 300名（260名） （ ）は平成30年度						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取り組みの方向性		<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止	今後の方針 (Action)	各年代に応じた様々なスポーツ教室の実施や既存のスポーツ教室の更なる充実。更なるクラブ会員確保のため、広報の充実や魅力的な事業の検討。 参加者数を10%増やす。			
二次評価 (外部)	B	継続	健康づくりへの町民の志向は高まっており、ニーズに沿った事業運営を期待する。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	38
事業名	体育協会助成					教育振興 計画の体 系	基本方針 3・1
事業費 (千円)	平成30 年度	1,120	令和元年 度	1,120	所管係	社会体育関係	
事業目的	スポーツ振興のため、海陽町体育協会に対し補助金を交付することにより、各種スポーツ大会の開催、町民が生涯にわたりスポーツを行える環境づくりを行うことにより、町民の健康づくりの推進を図る。						
事業内容 (Plan)	体育協会杯の開催（野球、バレー、フットサル、バドミントン、グラウンドゴルフ等）及びサーフィン、剣道、陸上の部に対しても助成						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>各クラブが様々な活動を行っていることにより、住民の健康増進に役立てる機会を提供することができた。社会体育の振興につながっている。</p> <p>体育協会杯開催行事（バレーボール2回、野球1回、ソフトバレーボール2回、グラウンドゴルフ2回、フットサル1回）大会を実施</p>						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性	○	拡充 継続 縮小 見直し 休廃止	今後の方 針 (Action)	大会運営等を各クラブで自主運営ができるように進めていく。各行事等の参加者を最低でも維持、又は増加するように努める。 参加者数を10%増やす。			
二次評価 (外部)	B	継続	幅広い年代層への生涯スポーツの環境づくりに効果を上げていることから、引き続き事業を実施していただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	39
事業名	人権教育の推進					教育振興 計画の体 系	基本方針
事業費 (千円)	平成30 年度	2,429	令和元年 度	2,912	所管係	社会教育係	
事業目的	学校・家庭・社会・関係機関等が時代の変化に応じた人権教育・啓発活動を推進することを通して、人権尊重の精神の寛容を図り、人権が共存する社会を築くことをめざす。						
事業内容 (Plan)	学校・家庭・地域・関係機関等と密接な連携を図り、同和問題をはじめ日々の生活の中にある人権問題の解決を目指すとともに、真に人権の確立した社会の構築に務める。すなわち、地域住民が交流を図ることを通して相互に理解を深め、地域が一体となったコミュニティづくりを進めて行きたい。そのための研修と住民の啓発を怠らず進めて行く。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>○町人権教育協議会 人権研修会（講演会 会員約50名） ○人権啓発映画上映会（1回上映 200名参加） ○人権コンサート（148名参加） ○分館巡回人権学習会 ・テーマ「コミュニケーションと人権」（30会場:延べ328名参加）</p> <p>各種イベントの参加人数については、その年の学習テーマ、内容等により、多少の増減はあるが、人権教育の推進、啓発については、学習機会をつくるのが最も大切であり、個々の学習成果を図ることはできないが、アンケート結果等から、少なからずその成果が表れている。</p>						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性	○	拡充 継続 縮小 見直し 休廃止	今後の方 針 (Action)	引き続き、人権啓発イベントや分館巡回人権学習会等を実施していくことで、地域に根ざした人権教育の推進を図っていく。			
二次評価 (外部)	B	継続	人権学習会や人権啓発のイベント等により、人権教育の推進や啓発が図られていることは評価できる。今後は、参加者を増やすための方策を検討していただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	40
事業名	いじめ・不登校防止					教育振興 計画の体 系	基本方針 2・4
事業費 (千円)	平成30 年度	0	令和元年 度	15	所管係	学校教育係	
事業目的	多様化するいじめ・不登校問題についての予防対策を行う。また、発生した場合には解決のための取組を実施する。						
事業内容 (Plan)	<p>(1) スクールカウンセラー(SC)事業 (2) スクールソーシャルワーカー(SSW)事業 (3) その他 相談員事業</p> <p>県事業であるSC・SSW事業の申込を行う。緊急で対応が必要な場合については町雇用の相談員で対応を行う。</p>						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>(1) SC 海陽中学校区1名 宍喰中学校区1名の配置 (2) SSW 海陽町小・中学校1名の配置 (3) 臨床心理士 (1ヶ月に1回) その他相談員により箱庭遊び (年3回)</p> <p>町雇用臨床心理士の相談事業を昨年度の2ヶ月に1回(6回分)から1ヶ月に1回(12回分)と増やした事により、不登校防止についてはより充実した対応ができるようになった。いじめ防止については発生後の対応として箱庭遊びを実施し、児童生徒の心の安定に繋がった。</p>						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性		<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止	今後の方 針 (Action)	SC・SSW・相談員との情報共有を定期的に行い、多面的な方向から防止対策を行えるよう取り組んでいく。			
二次評価 (外部)	B	継続	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用や町雇用の臨床心理士の相談回数を増やしたことがいじめ・不登校問題の予防や解決のための対策に繋がられていることは評価できる。今後も継続していただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	41
事業名	博物館の運営の充実					教育振興 計画の体 系	基本方針 5・1・ 2・3
事業費 (千円)	平成30 年度	3,038	令和元年 度	3,193	所管係	社会教育係	
事業目的	海陽町の特色ある歴史・文化の啓発に努める。また、町民ギャラリーを活用し、町内外の作品等を企画展示し芸術文化の向上を図る。						
事業内容 (Plan)	博物館の通例行事として、年3回程度の企画展・セミナー・講演会・講座を行う。また、館内に設置されている町民ギャラリーを活用し、芸術作品の展示事業を行う。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>企画展は「海陽町の蝶」「長国の埋蔵文化財 陸」「日本刀の源流 東北の刀」の三回実施した。</p> <p>セミナー・講演会は、企画展に関する講演会の他、例年行われている徳島県立博物館との共催行事「海部自然・文化セミナー」や「古文書の読み方講座」、新たに「歴史講演会」の実施を行った。</p> <p>町民ギャラリーは4月から3月までおおよそ1か月単位で展示替えが行われ、町民ギャラリーを目当てに博物館に来られる方も多く、入館者数へ大きく貢献した。</p> <p>最終的に、年間博物館利用者数は3418名に達し、前年度の2414名より1000人以上利用者数が伸びた。</p>						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
	○	A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
		B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性	○	拡充	今後の方 針 (Action)	阿波海南文化村活性化事業により、令和2年度から一部博物館で行う事業に変更がある。			
	継続	内容としては、町民ギャラリーが工芸館第二工房に移され、従来町民ギャラリーとして活用していた箇所が甲冑着用体験コーナーとして新設する、QRコードの読み取りを活用した音声ガイドの導入などが挙げられる。					
	縮小	上記内容を加えた上で、企画展やセミナー・講演会の回数は従来通りの実施を継続する。					
	見直し						
	休廃止						
二次評価 (外部)	B	拡充	住民のニーズに合った企画展やセミナー、また、町民ギャラリーの積極的な活用により、入館者が前年度より約1,000名増えたことは高く評価できる。さらに、たくさんの地域住民が集う、魅力ある博物館を目指して、事業の企画・運営の工夫を検討していただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	42
事業名	文化財保護・活用					教育振興 計画の体 系	基本方針5
事業費 (千円)	平成30 年度	4,214	令和元年 度	2,118	所管係	社会教育係	
事業目的	海陽町内の文化財の保護及び活用のための措置を行い、町民の文化的向上に資するとともに、我が国文化の進歩に貢献することを目的とする。						
事業内容 (Plan)	文化財の保護・活用についての活動は、例年定期的で開催される海陽町文化財保護審議会において諮問を行い、文化財が置かれている現状を鑑み事業内容が適正かどうかを見極め、実施を行う。 文化財に対する直接的な保護活動は主に、屋外の文化財草刈りまたは芝の整備作業、そして町指定文化財の説明板修繕及び設置作業となる。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	文化財審議会の実施及び草刈り作業は、概ね予定通りの実施ができた。 また、平成31（令和元）年度の町指定文化財の説明板修繕及び設置作業は、町指定史跡「海部城跡」を対象に行った。						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性	○	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止	今後の方 針 (Action)	文化財保護審議会において諮問を行いつつ必要な施策を行うことを前提とする。また、草刈り事業は継続、町指定文化財の説明板の修繕及び設置作業は、1年度につき1箇所程度を目安に継続的に新調していく。			
二次評価 (外部)	B	継続	文化財の維持管理はもちろんであるが、効果的な活用方法の検討をに一層取り組んでいただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	43
事業名	阿波学会総合学術調査					教育振興 計画の体 系	基本方針6
事業費 (千円)	平成30 年度	0	令和元年 度	500	所管係	社会教育係	
事業目的	海陽町に関する科学的調査及び研究活動を通じて教育・文化の振興に寄与するとともに、研究成果を地域環境・地域社会の向上に還元する。						
事業内容 (Plan)	徳島県内の学術専門団体から成り立つ「阿波学会」によって、海陽町の調査・研究活動が行われる。今回は全部で11分野に分かれており、各分野の研究活動結果は「中間報告会」「最終報告会」を行い、一般に公開するとともに、『総合学術調査報告書』を発行する。 なお、本事業は2年計画で、令和2年度に終了をする。						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	7月に実施した「結団式」は、地元住民の阿波学会の認知を高めるために行われた。調査・研究については、各分野を担当する班によって随時行われている。平成31（令和元）年度においては、大きな問題なく順調に調査・研究が続けられていることが、阿波学会事務局より報告されている。						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
	○	A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
		B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含め〇〇た検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性	○	拡充	今後の方 針 (Action)	令和2年度も調査・研究の継続の他、一般向けに開催される中間報告会と最終報告会の、二つの事業が実施予定となっている。			
	継続						
	縮小						
	見直し						
		休廃止					
二次評価 (外部)	A	継続	海陽町の学術調査結果の効果的な活用方法を検討していただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	44
事業名	グローバル教育の推進					教育振興計画の体系	基本方針 6・2
事業費 (千円)	平成30年度	11,513	令和元年度	18,717	所管係	学校教育係	
事業目的	海陽町の児童生徒の「使える英語」の力を伸ばし、グローバル化に対応できる人材を育成する。						
事業内容 (Plan)	<p>(1)～(3)の事業を実施し、英語力向上を目指す。</p> <p>(1) ALT等を増やし、学校での英語授業や町の英語事業を充実させる。 (2) 英語検定を小6・中3で無料化し、現在の英語力の把握を行う。 (3) 海陽町版のCEFR（語学力を測る指標）を作成し、各学年に合った目標を設定する。</p>						
事業の実施状況及び成果等 (Do)	<p>令和元年度よりグローバル教育推進事業が始まった。ALTや学校の協力の元、新しい取り組みを実施することができた。結果を検討し、より効果的な内容が行えるよう計画していく。</p> <p>(1) ・グローバル教育推進員として元高校ALTを配置。・ALTを2名から3名に増員。 ・学習指導要領改訂後の授業時間数（英語授業(活動)数 小1・2で月1回、小3・4で週1回、小5・6で週2回)を先行実施。 ・英語指導員(主に就学前の英語教育に関わるスタッフ)に小1・2の英語活動を行ってもらい、スムーズな接続に繋げる。 ・イングリッシュキャンプ 1日から2日へ変更 (ALT27名 1日目:中学生10人 高校生7人 2日目:小学生24人 中学生15人 高校生10人) ・POP English (放課後英語教室) を3地区で実施。 (2) 英語検定小6・中3で無料化。中1・中2で半額補助。 (3) CEFRを作成し、それに基づき、英会話チャレンジ(英語でのコミュニケーション能力を測定するもの)を実施(海陽中はコロナの影響で中止)。</p>						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
	A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている						
	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている						
	○ C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。						
D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。							
今後の取り組みの方向性	○	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止	今後の方針 (Action)	英語力向上のための取り組みを増やしていく。 ・中学校でのコミュニケーション活動 ・小学校での朝活動 ・オンライン英会話			
二次評価 (外部)	B	拡充	中学校を卒業したら簡単な日常会話ができる子どもたちを育てるために様々な事業を展開しており、高く評価できる。今後も英語が話せる「海陽っ子」を目指して、取り組みの充実を期待する。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	45
事業名	英語検定補助					教育振興 計画の体 系	基本方針 6・2
事業費 (千円)	平成30 年度	0	令和元年 度	287	所管係	学校教育係	
事業目的	児童生徒の英語力及び学習意欲の向上を図るため、英語検定の補助を行う。 海陽町小中学生の英語力の把握を行い、英語事業を効果的に行う。						
事業内容 (Plan)	英語検定について以下のように定め、補助を行う。 小6・中3：無料 中1・中2：半額補助 (※1年度につき、1つの受験が対象)						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>学校の協力のもと、高い受験率を得ることができた。最終目標の中3での3級取得を目標として、小学生や中学校入学時より取得に向けた意欲向上に繋げることが重要と考えられる。</p> <p>中3：英検3級以上取得率 36%（県指標65%（令和4年度目標）） 小6：英検Jrブロンズ80%以上取得率 86%</p> <p>受験者数 (全額補助) 中3 63名（海陽42名・宍喰21名）受験率91% 2級1名 準2級9名 3級33名 4級10名 5級10名 小6 53名（海南35名・海部5名・宍喰13名）受験率100% 英検ジュニアブロンズ53名 (半額補助) 中2 10名・中1 10名</p>						
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価						
	○	A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
		B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取 り組みの 方向性	○	拡充	今後の方 針 (Action)	小学校1～5年生でも英検Jr・英検を受ける機会を増やしていく。			
		継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次評価 (外部)	A	拡充	英検の受験率が高く、英語学習への意欲も感じられる。小1から小5の子どもたちにも英検Jrや英検を受ける機会を増やし、中・高への資格取得につなげていただきたい。				

令和2年度（令和元年度決算）事務事業評価シート

					評価番号	46
事業名	ALT派遣事業				教育振興 計画の体 系	基本方針 6・2
事業費 (千円)	平成30 年度	7,046	令和元年 度	10,258	所管係	学校教育係
事業目的	ALTを増やし、学校での英語授業や町の英語事業を充実させる。					
事業内容 (Plan)	小学校の英語授業時数の増に合わせて、ALTを増員する。 2名から3名に増員。					
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>授業時数の増に合わせてALTの増員を行った。また、ALTと毎週英語授業のミーティングを行うことにより、充実した授業内容を行えた。 授業以外にも増員したことによりイングリッシュキャンプやPOP Englishに参加する機会が確保できた。</p> <p>2学期より、3名体制となる。 ・海南小学校・海部小学校1名 ・穴喰小学校・穴喰中学校1名 ・海陽中学校1名</p> <p>1学期は海部高校の非常勤ALTを1・2年生の授業に配置し、授業数増に合わせた。</p>					
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価					
	○	A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている				
		B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている				
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。				
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。					
今後の取 り組みの 方向性	○	拡充	今後の方 針 (Action)	1校に1名のALTを配置することで、児童生徒がいつでも英語に触れる事のできる環境を整える。 また、町全体に英語が広がるようグローバル教育推進員や国際交流員の配置も計画していく。		
		継続				
		縮小				
		見直し				
		休廃止				
二次評価 (外部)	A	拡充	ALT1名を増員したことで、英語活動の充実が図れたように、英語を話せる子どもたちを育てるためには「ネイティブスピーカー」の活用が必須である。小中各校1名のALTの配置を検討していただきたい。			

令和2年度（平成元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	47
事業名	ICT教育の推進					教育振興 計画の体 系	基本方針2 基本方針6
事業費 (千円)	平成30 年度	2,257	令和元年 度	6,319	所管係	学校教育係	
事業目的	ICT環境の整備を進め、児童生徒の情報活用能力の育成や情報モラル教育の推進を図る。						
事業内容 (Plan)	<p>1. 遠隔授業システム機器導入 少子化が進む海部小学校（モデル校）の遠隔授業システム機器を有効的に活用し、教育の質を高めると共に、小規模校のデメリットを解消する。</p> <p>2. タブレット端末・iPadの導入 海南小学校・宍喰小学校へのタブレット端末の導入。（クラス最大分数の確保）</p> <p>3. 学校校務支援システムの共同化 2020年導入に向け、県下一斉システムの共同化に向けての委託</p>						
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>1. 遠隔授業システム機器の活用 宍喰小学校の6年生と海部小学校の6年生を遠隔システムで接続し、修学旅行で お互い学習したことを発表し合った。 また、海部小学校1年生の教科（道徳）の学習で（食育の日）に給食センターと 接続し、給食ができていく様子を中継したり、給食について質問を行ったりするな ど、双方向での活用を行った。</p> <p>2. タブレット端末・iPadの活用 元年度海南小17台、宍喰小7台のタブレット（iPad）機器が導入し、各 授業で有効に活用することで、授業をより深め、教育の質の向上が図られた。</p> <p>3. 学校校務支援システムの共同化 教職員の多忙化解消や働き方改革の推進のため、県下一斉にシステムの導入に 向け、検討会を重ね、システム共同化に関する事務の委託を締結。</p>						
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検 討が必要である。						
今後の取 組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	<p>1. 遠隔授業システム機器の有効活用の検証。</p> <p>2. GIGAスクール構想による、児童・生徒に 対して、1人1台端末の購入。</p> <p>3. 学校校務支援システム（2020年導入） 導入に向けての試験運用の実施。</p> <p>4. 教員のスキルアップの研修等。</p>			
	○	継続					
		縮小					
		見直し					
		休廃止					
二次（外 部）評価	B	継続	3小学校すべてに1学級分のタブレットを導入し、授業に活用したこと で、個々に応じたわかりやすい授業が展開できており、評価できる。 今後は、1人1台のタブレット導入に向け、全教職員が効果的にタブレッ トを使用できるよう研修をさらに深めていただきたい。				

令和2年度（平成元年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	48
事業名	キャリア教育の推進					教育振興計画の体系	基本方針6
事業費(千円)	平成30年度	0	令和元年度	0	所管係	学校教育係	
事業目的	地元海陽町の生活を支えている人材との出会いや交流体験、職業に関わる体験などの活動をとおして、自らの生き方や将来の職業生活について考えを深め、社会的、職業的に自立し、社会の中で自分の役割や自分らしい生き方を実現させようという心を育成する。						
事業内容(Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ○小中高の連携したキャリア教育。 ○中学校の職場体験学習の実施。 ○キャリア教育のための環境整備。 						
事業の実施状況及び成果等(Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・海陽中学校 3年生が、町内27事業所で職場体験を実施。 ・穴喰中学校 3年生が、町内26事業所で職場体験を実施。 ・各小中共に総合的な学習の時間に地域の方々に講師に様々な活動を実施。 <p>成果 職業体験を実施することで、大人とのコミュニケーション、また、友達同士での意見の交換（話し合い、伝え合い、気づき）など、国語力向上に関わる面、しいては身のまわりの仕事や環境に関心をもち、自分の将来について考え、自己の生き方や進路を見つめ直すことができた。</p>						
一次(内部)評価(Check)	事業の達成度評価						
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている					
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている。					
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。					
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。						
今後の取り組みの方向性	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 拡充 ○ 継続 ○ 縮小 ○ 見直し ○ 休廃止 	今後の方針(Action)	<ul style="list-style-type: none"> ・単に講話を聴くだけに終わらないよう、講話と授業をリンクさせるなど、各学校の教職員と十分連携して取り組む。 ・学校からの多様なニーズに対応するために、教育委員会での講師登録や調整、学校現場での実効性等については、計画をたてて取り組む。 			
二次(外部)評価	B	継続	子どもたちが将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力をつけるために小中高の連携したキャリア教育を推進していただきたい。				

4. 外部評価委員会の意見

(1) はじめに

前年度教育委員会が実施した事務事業が令和元年海陽町教育基本方針に定める各施策に沿った適切なものであるかどうか48の主要事業について点検・評価を行いました。実施した48の事業について、一つ一つていねいな説明があり、質問に対しても適切な返答がありました。評価シートや説明により、事務事業の計画の進捗状況や成果、課題が十分に確認することができました。

(2) 総評

令和元年度の事務事業評価の一次評価（自己評価）は、海陽町第2次教育振興計画（平成28年度から令和2年度までの5年間）の目標及び教育基本方針に基づいたものとなっています。自己評価を行った48事業のうち、A（計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている）が4事業（全体の8%）B（ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている）が40事業（全体の84%）C（計画通りではなかったが、事業目的は達成した）が4事業（全体の8%）D（計画より遅れている、あるいは未実施である、事業の見直しを含めた検討が必要である）はなしという評価でした。

一次評価（自己評価）を踏まえての二次評価（外部評価）により、令和元年度の教育委員会の事務事業全体が遅滞なく、適切に実施されたものと判断します。

(3) 注目した事務事業に対する所見

今回、点検評価を実施した48の事務事業ごとに評価を実施し、意見や見解も述べさせていただきましたが、今回の報告のなかで特に注目した2つの事業について詳しい所見を述べさせていただきます。

① 海陽町では、就学前より英語に触れる機会をつくり、小学校では、「聞く力」「話す力」を養い、中学校では、小学校で培った「聞く力」「話す力」の技能をさらに伸ばす授業を導入し、就学前と義務教育の11年間を通して英語を用いてコミュニケーションを図り、中学校卒業時には、英語で簡単な日常会話が話せる海陽の子どもの育成を目指しています。

この「聞く力」や「話す力」を伸ばすためにも、ネイティブスピーカーである外国

語指導助手（ALT等）と授業等での交流を持つことは、とても大切であると思います。小学校では、外国語指導助手との英語活動を行うことで、子どもたちの英語を聞く耳が自然に育ち、物おじせず自ら進んで英語を話そうとする姿が見られること、中学校では、既に習った英語を使い、自分の言葉で話そうとする姿勢が見られるということを知りました。これは、外国語指導助手1名を増員して、外国語指導助手と英語を用いてコミュニケーションをとる機会を増やしたことの成果が表れてきていると考えます。

今後は、さらにネイティブスピーカーである外国語指導助手（ALT）との英語での交流の機会を増やすよう町内の小中各校に外国語指導助手（ALT）1名ずつ配置する計画を積極的に進めるよう希望します。

また、英語検定の補助事業も英語学習への動機づけとなっていると考えられるので、小1から小5の子どもたちにも英検 Jr や英検を受ける機会を増やすよう補助事業を拡大するよう希望します。

令和2年度より、小学校5・6年生の英語の教科化が実施されています。「聞く」「話す」だけでなく「読む」「書く」領域も入ってきます。4技能を使って自分の考え・気持ちを伝え合い、小学校の授業の中でコミュニケーションの基礎を身につけていきます。正式教科となったことに伴い、教員の授業力の向上が求められます。教員の資質の向上と併せ、より一層のグローバル教育の充実と推進を期待します。

- ② 海部郡内唯一の高校である海部高校も少子化の影響で郡内の中学3年生や高知県東洋町の中学生が全員入学しても現在の海部高校の定員を満たすことができなくなる状況にあります。現在の定員を維持しないと、教職員数の減少により、夢と希望に溢れた高校生活を保障し、個々の進路実現のための多様な学習や部活動の競技力を維持・向上させることが困難となり、生徒や保護者の要望に十分応えられなくなります。

このような中、学力向上に関する助成補助、文化教養を高める助成補助、スポーツの振興に関する助成補助、入学に関する補助等の地元高校育成補助事業による魅力ある教育により進路の充実やバスケットボール部をはじめとする部活動の活躍が見られました。このことで、県内外からの入学生も増加し、学校も地域も元気になっており、高く評価します。

今後も幼・小・中・高の連携をさらに深め、幼稚園から高校まで一貫した教育の実現と現在の海部高校の規模を維持するためにも、海部高校の魅力化事業の継続を強く希望します。

(3) おわりに

一次評価では、事務事業の「縮小」、「見直し」、「休廃止」が0件でした。昨年度も意見を述べさせていただきましたが、限られた財源や職員数の中で、新たな教育課題や社会情勢の変化に的確に対応していくために、スクラップ・アンド・ビルドの導入や他部局、他団体が行っている類似事業との統合等の事務事業の見直しや改善を早急に行う必要があると考えます。「継続」とした事業においても、従来どおりの内容で実施するのではなく、外部評価委員会や教育委員会の意見を反映し、検討を加え、事業の目的が達せられるよう工夫・改善に努めるなど、効果的に教育行政を推進していただきたいと思います。

教育委員会においては、今回実施した事務事業の点検・評価を踏まえ、住民のニーズに応じた海陽町の教育行政の一層の充実に取り組まれることを願っています。

令和2年7月30日

海陽町教育委員会外部評価委員会

叶崎 正

登井 啓文

資料 1

海陽町第 2 期教育振興計画体系

平成 28 年度～令和 2 年度（5 年間）

基本方針 1	社会全体で子どもたちを育てる地域協働体構築の推進
推進施策①	コミュニティー・スクールの設置と推進
推進施策②	3 館協働（文化館・博物館・図書館）による地域力の向上
推進施策③	スポーツ少年団、社会体育それぞれの連携の推進
推進施策④	家庭の教育力の充実
基本方針 2	主体的に学び合う、たくましく生きる力を育てる学校教育の充実
推進施策①	主体的に学び合う授業の展開に努め、たくましく生きるための確かな学力の向上
推進施策②	3 館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進
推進施策③	小規模化やグローバル化にともない、各学校の特色を生かした教育、幼・小・中・（高）の縦・横の連携を生かしての交流学习によるグローバル化の推進
推進施策④	特別支援教育を指導方法の根底に据え、教師の資質の向上
推進施策⑤	子どもたちが心身ともに豊かでたくましく育つ保健・体育指導の充実
推進施策⑥	主体的に判断し行動できる「生き抜く力」を育む防災教育の徹底
基本方針 3	生涯にわたり楽しめる、生涯学習・生涯スポーツの振興
推進施策①	3 館協働を中心とした生涯学習の推進
推進施策②	生涯学習・生涯スポーツに対する環境の充実
推進施策③	子どもから高齢者まで、気軽に参加でき、生涯にわたってスポーツ・レクリエーションに親しめる体制の充実
推進施策④	社会教育と学校教育との連携の推進
基本方針 4	一人ひとりを尊重する人権教育の推進
推進施策①	社会教育全体を通して、人権に関する多様な計画性のある学習活動、啓発の推進
推進施策②	学習者の自己教育活動、意識変革に繋げる指導者の拡充
推進施策③	学校教育を通して、知的理解だけではない態度化・行動化に現われる人権意識の育成
推進施策④	人権尊重を基盤とする学習環境の整備
推進施策⑤	指導内容や方法についての工夫・改善を図ることができる指導者の資質の向上
基本方針 5	郷土の遺産である文化財の保存と活用の推進
推進施策①	文化財を魅力的にわかりやすく、まちづくりや地域の活性化にいかしていくための効果的な活用内容の整備
推進施策②	多くの住民が、とくに子どもたちが郷土の良さに対する理解を深め、継承・発展に繋げるふるさと学習の推進
推進施策③	文化財に主体的に関わり、身近に感じ、魅力を広げる活動の推進
推進施策④	様々な文化的な要素を持つ各施設や各文化財との連携
推進施策⑤	魅力をより理解するための新たな研究の推進
基本方針 6	社会の変化に対応する教育の推進
推進施策①	ICT 環境の整備を進め、児童生徒の情報活用能力の育成や情報モラル教育の推進
推進施策②	小学校の外国語活動・英語科から中学校英語科の連携を中心とした英語教育全体の抜本的な充実、強化
推進施策③	学校の教育活動全体を通じて行う「働く」ことへの関心・意欲を高めるためのキャリア教育の推進
推進施策④	年々加速する環境問題に関心を持ち、課題解決に向けた環境教育の推進
推進施策⑤	今後の社会の変化を見据え、それに対応する教育が展開できる教員の資質の向上

資料 2

○海陽町教育委員会外部評価委員会設置要綱

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、海陽町教育委員会（以下「教育委員会」という。）に置く外部評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(職務)

第 2 条 委員は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 教育委員会が実施した事務事業について、外部の視点から評価を行い、教育委員会に評価結果を報告すること。
- (2) その他教育委員会が必要と認めること。

(外部評価委員の選任)

第 3 条 委員は教育等に学識を有する者 2 人を教育委員会が選任する。

- 2 委員の任期は 2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は再任することができる。

(会議)

第 4 条 委員は教育委員会から事務事業の事後評価の報告が行われた場合、外部評価を行うものとする。

- 2 委員会は必要があると認めたときは、委員以外の者を出席させて意見又は説明を聞くことができる。

(その他)

第 5 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が定める。

附則

この要綱は、令和元年 6 月 26 日から施行する。